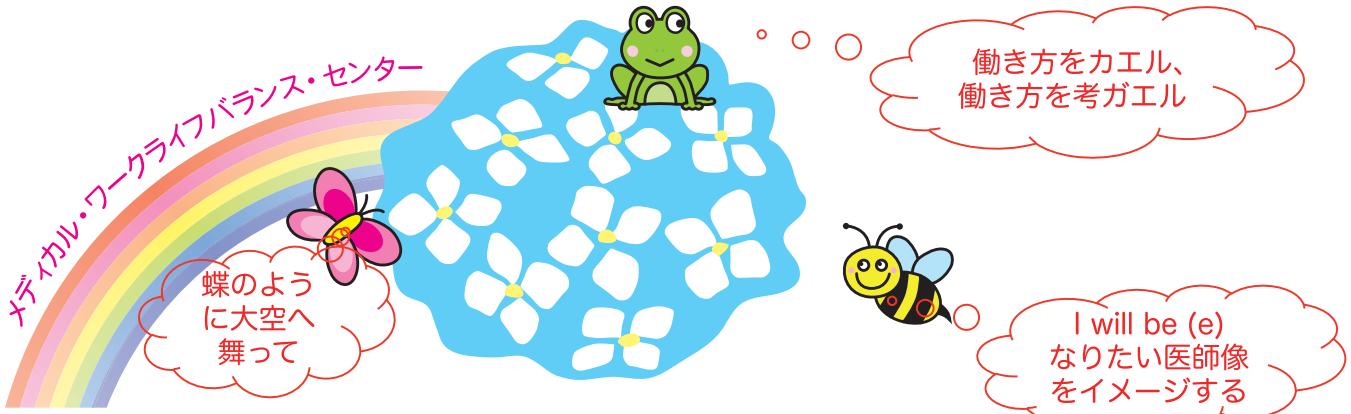


あじさいプロジェクト 活動報告書

平成24年度



長崎大学病院
メディカル・ワークライフバランスセンター



あじさいプロジェクト

NAGASAKI AJISAI PROJECT

仕事と生活の両立を図りながら活躍するドクターを応援します！



キャリアサポート

キャリア・コンサルティング

復職＆リフレッシュトレーニング

ワークライフバランス、ダイバーシティ、キャリアに関する講演会・講習会



ワークライフバランス実現を目指す病院の取り組み

WLB実現を目指す病院の取り組み紹介

長崎大学病院の取り組み
診療科の取り組み
院内保育園
ホスピレート認証

取材/地域就労支援の現状



医療機関 国の支援制度紹介 地域就労支援情報

地域医療機関支援情報

国の支援制度紹介

長崎大学病院は長崎県の委託をうけて、メディカル・ワークライフバランスセンターを設置し、長崎県内の医師が「働きやすさ」と「働きがい」を感じて医療に取り組める環境整備を常に考えています。センターが推進するのがあじさいプロジェクトです。

あじさいプロジェクトの活動は、ワークライフバランスの理念に基づいています。ワークライフバランスとは、充実したライフを得るために、ほどほどに働くという考えではなく、ワークとライフの相乗効果を狙ったものです。つまり、ライフで得られたスキル（例えば患者さんやコメディカルとの意思疎通をよくするコミュニケーションスキル）をワークに生かし、仕事の効率を上げて長時間労働を改善します。女性医師には「仕事と育児の両立」を図り、多様な就労形態で、子どもの成長に応じて徐々にステップアップできる仕組みづくりと、育児や介護等で時間制約のある女性および男性医師が、気兼ねすることなく働ける「お互いさま」の風土づくりで、キャリアが継続できることを目指しています。

目次

| | | |
|---|-----------|-------|
| はじめに | - - - - - | 1 |
| 1.プロジェクトの概要と目的 | - - - - - | 2 |
| 1) あじさいプロジェクトとは | - - - - - | 2 |
| 2) メディカル・ワークライフバランスセンターについて | - - - - - | 2 |
| 3) あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関 | - - - - - | 3 |
| メディカル・ワークライフバランスセンター 長崎県女性医師等就労支援協議会 長崎大学男女共同参画推進センター（おもやいセンター） ながさき女性医師の会 | | |
| 4) 応援メッセージ | - - - - - | 4 |
| 5) ホームページ スタートアップメンバー紹介 | - - - - - | 6 |
| 6) サポーター倶楽部 | - - - - - | 8 |
| 7) あじさいAGORA | - - - - - | 9 |
| 2.活動報告 | | |
| 1) あじさいプロジェクト ホームページからの発信 | - - - - - | 10 |
| 2) キャリアサポート | - - - - - | 11 |
| 2-1) キャリアコンサルティング | - - - - - | 11 |
| 2-2) 復職&リフレッシュトレーニング | - - - - - | 12~19 |
| 第1回 急変時対応 (2012.9.24) | | |
| 第2回 輸液のはなし (2012.11.12) | | |
| 第3回 胸部単純エックス線写真読影 (2013.1.29) | | |
| 第4回 「咳の鑑別」「アスピリン喘息」 (2013.3.11) | | |
| 3) 支援メニュー | - - - - - | 20 |
| 4) 大学病院内の支援 | - - - - - | 21 |
| 各診療科ごとの支援情報 あじさい保育園 ホスピレート マタニティー白衣貸し出し | | |
| 5) 医科系医局長訪問 | - - - - - | 22~23 |
| 6) 地域医療機関訪問（取材、インタビュー） | - - - - - | 24~27 |
| 第1回 長崎記念病院 (2012.6.18) | | |
| 第2回 上五島病院 (2012.9.3) | | |
| 第3回 長崎北病院 (2012.11.6) | | |
| 7) 地域就労支援情報 | - - - - - | 28 |
| 8) 家族のケータイフォトコンテスト | - - - - - | 30 |
| 9) 学生とのランチミーティング | - - - - - | 34 |
| 10) サポーター倶楽部通信 | - - - - - | 35 |
| 11) 講演会 | - - - - - | 36~47 |
| 11-1) 医学生・研修医をサポートするための会 | - - - - - | 36 |
| 11-2) あじさいプロジェクト講演会「次世代の医師へ伝えたいこと」 | - - - - - | 42 |
| 3.調査報告 | - - - - - | 48~53 |
| 1) 長崎大学病院職員における介護ニーズアンケート | - - - - - | 48 |
| 2) 病院管理職におけるワークライフバランス意識調査アンケート | - - - - - | 50 |
| 3) 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート | - - - - - | 52 |

4.学会・講演 ----- 54~55

1) 「医療現場におけるワークライフバランスの重要性について」

「長崎大学関連病院長会総会 長崎大学医学部との合同会議」

(平成24年7月13日 長崎市 ホテルニュー長崎)

2) 「医師のための「仕事と生活のシナジー」を考えませんか?」

第24回 放射線医学教室同門会

(平成24年12月8日 長崎大学医学部良順会館)

3) 「今だからこそ、医療現場にワークライフバランス・ダイバーシティーが必要とされるわけ」

第51回日本医師会生涯教育講座

(平成24年12月16日 長崎県医師会館)

4) 「骨粗鬆症病態解明と、医療現場におけるワークライフバランス実現を目指して」

平成24年度医療センター生涯教育セミナー

(平成25年1月30日 長崎医療センター)

5) 「医療人として、経営者としてのワークライフバランス」

長崎市勤務医対策研修会

(平成25年2月13日 長崎市医師会館)

6) 「医療現場におけるワークライフバランス実現を目指して 一仕事をしていく上での幸福とはー」

山口県医師会男女共同参画部会

(平成25年3月3日 山口グランドホテル)

5.広報活動 ----- 56~65

Choho 「大学はわたしの仕事場2」 2012.4.2

NBC放送 特集 医療現場のワークライフバランス 2012.4.13

長崎大学病院インターネットでセンター開設の記事 2012.4.23

長崎県医師会雑誌 座談会 2012年6月号

東京交通新聞「女医の育児サポート」 2012.5.21

長崎大学医学同窓会雑誌 朋百(ポンペ) 127巻「教授就任のご挨拶」 2012.9.1

朝日新聞「おイネ賞に伊東医師」 2012.10.13

長崎新聞 「あじさいプロジェクトスタート 女性医師の復職を支援」 2012.12.3

日本医師会ドクターラーゼ 「大学における男女共同参画の実践事例」 2012.12.10

6. 委員会・ワーキンググループ活動 ----- 66~73

1) センター運営委員会 2012.7.3

2) 病児保育検討ワーキンググループ 2012.10.10, 2013.2.28

3) みんなの和つくりワーキンググループ 2012.10.29, 2013.3.13

4) ホームページ運営委員会 2012.6.24, 2012.11.29, 2013.3.28

5) あじさいプロジェクト活動報告会 2013.3.4

7.受賞 ----- 74

第1回おイネ作文コンテスト 最優秀賞(奨励賞)

8.その他 ----- 75

9. 活動目標と実績一覧

10. 謝辞 ~平成25年度に向けて~



はじめに

ごあいさつ



わたくしは、メディカル・ワークライフバランスセンターのセンター長 伊東昌子です。長崎大学医学部卒業、長崎大学医学部放射線科に入局し、放射線科医として勤務してきました。ワークでもありライフでもある骨粗鬆症の研究、とくに画像解析を駆使して骨構造や骨強度解析などの研究を継続して行っております。

2012年4月、長崎大学病院内にメディカル・ワークライフバランスセンターが開設されました。このメディカル・ワークライフバランスセンターは、長崎大学病院の「医療人」を対象に、医師の復帰・就労維持支援、仕事と家庭の両立の可能な職場環境整備、および次世代の医療を担う医療人の育成支援に努めています。

その実現には、組織としての取り組みと同時に、各医療人の意識変革も重要です。また、メディカル・ワークライフバランスセンターでは、あじさいプロジェクトと称して、長崎県・長崎大学男女共同参画推進センター・長崎県医師会・ながさき女性医師の会と連携しながら、まずは長崎県内医療機関で勤務する医師を対象に働きやすい職場、やりがいを持ってイキイキと活躍できる医療現場を目指して活動します。

過重労働に陥りがちな医療の現場においては、ワークライフバランスの実現はなかなか難しい状況かも知れませんが、みなさまのご理解とご支援をいただき、一步一步実現に向けて努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

あじさいプロジェクトのロゴ



あじさいは、花弁状のがく片を4、5枚もつ小さな花が集まって咲き、大きなあじさいを作ります。ヒトが集まって、つながりあって社会ができるイメージから、あじさいプロジェクトと命名しました。あじさいは長崎市の花でもあります。

あじさいプロジェクトのロゴには、カエル（働き方をカエル、働き方を考ガエル）、ミツバチ（I will BE(E)）となりたい医師のイメージをもち、そして蝶のように大空へ舞っていただきたいという思いでつくりました。

1. プロジェクトの概要と目的

1) あじさいプロジェクトとは

あじさいプロジェクトは、長崎県全域を対象に医師が仕事と生活の両立を実現するための支援とその環境整備を推進するプロジェクトです。

メディカル・ワークライフバランスセンターが中心となり、関係機関と連携してプロジェクトをすすめます。

主な取り組みのキャリアサポートでは、医師としてのキャリアの継続・復帰支援のためのコンサルティング、復職トレーニングやイベントの企画を行っています。また、ホームページでさまざまな支援情報・イベント情報を発信。また、気軽に相談できる会員制のコミュニティーサイトとして、あじさいAGORAを開設しています。

そのほか、県内により多くの医療機関で仕事と生活の両立が可能な就労環境を整備していくなど、日々活動を続けています。

2) メディカル・ワークライフバランスセンター

「ワークライフバランス」は、単に仕事以外の生活の充実を目指すものではなく、家庭生活、地域生活、自己啓発などを充実させて、生活全体のバランスをよくすることで仕事の充実を図り、また仕事の充実は生活によい影響を与えるという、ポジティブなサイクル(synergy)を作り上げることです。その効果は、個人だけでなく、家庭・地域・職場にもたらすことが期待されます。ひとり一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域社会においても、ライフステージに応じた多様な生き方が選択できる社会を作り出します。

ワークライフバランスが注目される背景には、少子化への危機感と人材確保への対策がありますが、最近はこれに重なって大介護社会の訪れがあります。育児と異なり、介護はいつまで継続するのか先が見えず、働き盛りの男性も含んだらゆる医療人にとって離職を余儀なくされる状況発生の可能性を認識し、自分のライフサイクルに合わせて家庭と仕事の両立を維持できることが必要な時代となっています。

このメディカル・ワークライフバランスセンターは、長崎大学病院の「医療人」を対象に、医師の復帰・就労維持支援、仕事と生活の両立の可能な職場環境整備、および次世代の医療を担う医療人の育成支援に努めています。その実現には、組織としての取り組みと同時に、各医療人の意識変革も重要です。



また、メディカル・ワークライフバランスセンターでは、あじさいプロジェクトと称して、長崎県・長崎大学男女共同参画推進センター・長崎県医師会・ながさき女性医師の会と連携しながら、まずは長崎県内医療機関で勤務する医師を対象に働きやすい職場、やりがいを持ってイキイキと活躍できる医療現場を目指して活動します。

3) あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関

メディカル・ワークライフバランスセンター

長崎県女性医師等就労支援協議会

長崎県の女性医師等就労支援事業について、関係機関の代表の委員から構成される協議会で、行政（長崎県）が開催。関係機関がどうやって協力して課題を解決していくかを審議する。

長崎県医師会

長崎大学男女共同参画推進センター（おもやいセンター）

人間環境支援、両立支援及び女性研究者拡大支援の3部門を柱にして、長崎大学の男女共同参画推進を進めている。

<http://www.cge.nagasaki-u.ac.jp/about/index.html>

ながさき女性医師の会

女性医師にとっての現状や将来を見据えて、長崎県在住の女性医師を対象に”女性医師の集まり”を結成。さまざまな情報を交換し、お互いを支援している。

<http://nagasaki-joi.net/gaiyo.html>

長崎大学病院医療教育開発センター

長崎大学病院の医師・歯科医師・看護師・薬剤師・コメディカル等の教育部門が集結し、全職員の生涯教育に責任を持つ部署として機能。

<http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/kaihatu/>

長崎大学医学部先端医療支援センター

医学教育の支援する目的で設立され、医学教育情報発信する。

<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/medu/index.html>

<長崎県内の拠点病院>

長崎大学病院

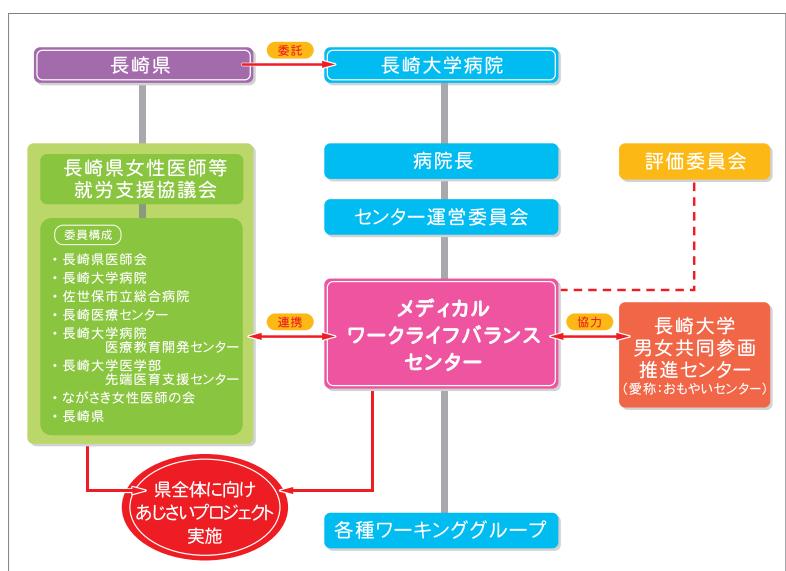
<http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp>

国立病院機構長崎医療センター

<http://www.hosp.go.jp/~nagasaki/>

佐世保市立総合病院

<http://www.hospital.sasebo.nagasaki.jp>



4) 応援メッセージ



長崎大学学長
片峰茂氏

長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンターへのエール

平成22年12月から1年余にわたって、文部科学省の「今後の医学部入学定員の在り方等に関する検討会」委員として、医療過疎、医師不足の打開策としての医学部入学定員増及び医学部新設の妥当性等に関する議論に参加しました。眼目の医学部新設に関しては対立的議論に決着が着かず両論併記の結論となりましたが、1年間の議論を通して明らかになったのは、医師の数を中途半端に増やすだけでは問題は解決しないということです。地域間や診療科間の医師配置の不均衡を是正するための制度改革が不可避ですし、人口の超老齢化と右肩下がりの経済というこの国の状況を踏まえての福祉・介護をふくめた医療全体のシステム改革なしには、問題は解決しないのです。

その中で、女性医師が一線で働き続けることのできるシステム・環境整備も最重要の懸案の一つです。平成20年度段階で、我が国の医師総数に占める女性の割合は18.1%です。近年の医学部入学者に占める女性の割合が1/3を越えていることから、女性医師比率は今後確実に増え続けます。最大の問題は、女性医師の就業率が免許取得直後をピークに下がり続け、11年後には76%まで落ち込むという事実です。多くの女性医師が、結婚・妊娠・出産・子育てを経験するこの時期におけるワークライフバランスの維持がきわめて重要であることが判ります。この国の医療の将来を鑑みれば、状況は“待ったなし”です。長崎大学病院においても、女性医師のワークライフバランス維持のための様々な環境整備方策を大胆に遂行するとともに、女性医師自身の意識改革を図る必要があります。

そのような中、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターがスタートします。今後のライフワークとしてこの課題に取り組むことを決断された初代センター長伊東昌子先生に敬意を表するとともに、心よりのエールを送ります。大学としてセンターの実効ある業務遂行のために全力で支援申し上げることをお約束して、センター発足のお祝いのご挨拶といたします。



長崎大学病院長
河野茂氏

人にとって仕事と生活は人生の大きな部分を占めています。少子高齢化と経済の低迷、また東日本大震災など未曾有の危機に対して、私たちは前を向いてしっかりと協力し合い前進して行かなくてはなりません。そこには将来を託す子供を育て、また頼れる社会を築くためにも高齢者を支援するためにワークライフバランス、すなわち仕事と生活の調和を目指すシステム作りが不可欠です。

医療の現場を考えてみると、女子医学生は2002年には43%、2011年には31%を占めています。看護師も平成9年412名であった数が、平成16年に527名、平成19年630名、平成22年764名、平成24年には864名とこの15年間で倍増しています。女性医師も医員などの非常勤は40%を占め、病院教員の17%は女性です。このように増加した現状において、いかに働きやすい病院環境を築いていくかが、大学病院に課せられた使命であります。

この使命を果たすべく、今回メディカル・ワークライフバランスセンターを本院に設立できることは大きな意義があり長崎大学が掲げる新任の教官に占める女性教官の割合を30%越える目標を達成する意味でも、大きな助けになると確信しています。全ての医療職の仕事と生活の調和のために、大きな貢献を期待し、病院としてもしっかりと支援をしていきたいと考えています。

長崎大学では平成21年度に採択された女性研究者支援プロジェクトの中で掲げたミッションに則って理系の女性研究者を支援して参りました。そのとき調査した結果では、長崎大学の女性研究者は140人余でしたが、未就学児を持つ方は1割に満たないということがわかり大変驚きました。もちろん、お子さんが3人いてがんばっていらっしゃる方もいましたが、30代40代の働き盛りでは独身者が多く、しかも、職位があがるにつれ女性研究者の数は減少しておりました。これは何を意味しているのでしょうか。出産育児によってワークライフバランスがとれなかつたため、せっかくのキャリアを捨ててやめざるを得なかつたに違いありません。一方、日本では、医師は最も尊敬される職業の一つであります。医師は、患者の命を預かるのですから、一瞬たりとも気が抜けない、でも、非常にやりがいのある仕事を担っているのです。一人の患者を継続して診療にあたらなければならぬケースも多いので、日曜も祭日もなく、自分の都合で休むわけにはいきませんでした。こういった事情から、女性医師は出産育児を機にやめてしまった方も少なくないと思います。しかし、よく考えてみて下さい。「日曜も祭日もなくずっと継続して診療にあたる」というのと「出産育児」を無理矢理ぶつける必要はないのではないかでしょうか。しかも「出産育児」は一生の中で、限られた期間であります。女性医師のライフワークバランスをとる事は、男性医師にとっても、また、男女を問わず、若い研修医にとっても、働きやすい環境を作る事に他なりません。常日頃このように考えていたときに「メディカル・ワークライフバランスセンター」の誕生です。ホームページには、診療科からの女性医師ウェルカムメッセージをはじめ、わくわくするような記事がたくさん載っていました。うれしくてたまりません。これから、予想外の大変な事が待ち構えているかもしれません、地道に少しずつ前進していただきたいと思います。心から応援しております。



長崎大学
男女共同参画推進
センター長
大井久美子氏

5) あじさいプロジェクトホームページ スタートアップメンバー

このスタートアップメンバーの5名は、あじさいプロジェクト ホームページを立ち上げる原動力となりました。診療、研究、教育、行政職に忙しい中、審議を重ねてホームページができあがりました。



伊東昌子
センター長

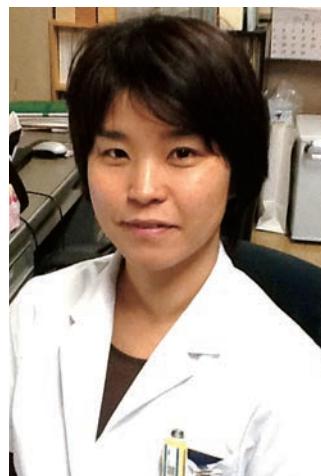
みなさん、こんにちは。

大学時代から、私の人生のほとんどを長崎で過ごし、長崎大学で学び、長崎大学病院で働いてきました。これまで放射線科医として、骨粗鬆症研究者として、この地で努めてきましたが、人生の第3ステージとして、医療人のためのワークライフバランスの実現に向けて、私にできることを一步一步やっていきたいと思います。

医師として様々な働き方があることを学生や若い女性医師に伝えること、そしてライフも充実させ、キャリアも追求できる、医療人としてやりがいを持ってイキイキと仕事ができる職場つくりを目指していきたいです。

夫は長崎医療センター病理医であり、私の人生のいろいろな場面で支えてもらっていました。二人の子供は成人して、それぞれの人生を歩んでいます。

こんにちは。産婦人科の谷川輝美です。2002年と2004年に出産し、多くの方々に協力してもらいながらなんとか仕事を続けています。育児は次世代を育てるというとても大切な仕事だと思うのですが、なかなか評価されにくい面もあります。男女問わず、社会で責任ある仕事をしながら家庭生活もきちんと送れる社会になってほしいです。みんな困っていることは同じことが多いので、このホームページを通して情報を共有して一緒に頑張っていけたらいいなと思います。



谷川輝美先生



長谷川麻衣子先生

皆さん、こんにちは。医師免許を活かした多様な生き方実践中の、長崎県庁で女性医師就労支援事業を担当しています長谷川です。内科勤務後、長崎大学熱帯医学研究所大学院卒、行政医師5年目です。下3歳から上10歳までの3人娘と夫と暮らしています。子育てしながら働いている経験から思うに、女性医師だけ支援したってダメです。女性医師の就労支援を通じて、ワークライフバランス実現という観点から、医師の就労環境改善するというスタンスでこの仕事をさせていただいている。ワークライフバランスのある豊かな社会を次世代に残したい、です。

ようこそあじさいプロジェクトへ。
Workaholicな夫と、思春期真っ只中の娘との3人暮らしを進行中。“良い仕事をするために、プライベートの充実が必須”の考えのもと、ニンジンをぶら下げる走る馬？のような日々を送っています。

私は、外科の臨床経由で保健医療行政へとやってきました。自分が本当にやりたいと思う仕事は、すぐには見つからないかも知れません。今の仕事が実は自分に向いていないと思うかも知れません。でもそんな中でも日々の仕事を一つ一つ丁寧に積み重ねていけば、後々役に立つ日がきっと来ます。そう考えれば、雑用を雑用と感じなくなるかも知れませんね。そう言う私はまだまだ修行中ですが…。



藤田利枝先生



福島千鶴先生

はじめまして。私は呼吸器内科医ですが、現在、大学病院臨床研究センターで仕事をしております。2人の子供が小さい頃は、私の周りにいるありとあらゆる方に助けて頂きました。やる気に満ちた若い先生方の力になれることがあればと思っていますが、介護に関連して自分自身が、このプロジェクトの恩恵にあずかるかもしれません。やりたいことをやれる職場環境づくりを目指して頑張ります。よろしくお願ひします。

6) サポーター倶楽部

あじさいプロジェクトの活動に賛同してくださる方には、サポーター倶楽部に入会していただきます。県内の医療機関で勤務している方、医療関係者ではない方も、心から活動を応援する意思をお持ちであれば男性・女性どなたでもサポーターに大歓迎です。サポーターとして特別な義務はありません。

サポーターになっていただいた方には、あじさいプロジェクトの「缶バッジ」を差し上げます。また、ワークライフバランスに関する情報やイベントのお知らせなどを、メールでお送りします。



サポーターですよ！と、
缶バッジを白衣に付けて



この度、サポーターメンバーが
100名に到達いたしました
(2012.11.28現在)

あじさいプロジェクトの取り組みやイベント情報等を満載した、メールマガジンを送ります。

あじさいプロジェクトサポーター倶楽部通信
vol.1 (2012年11月30日)
vol.2 (2013年1月17日)
vol.3 (2013年3月1日)

を発信しました。

7) あじさいAGORA

あじさいAGORAは、医師として仕事と生活を両立するためのコツを知りたい、先輩医師の話を聞いてみたい、長崎県内の役立つ支援情報を知りたい、今の医師の就労環境について考えてみたい、といった方にお勧めのmixi版コミュニティサイトです。

交流コミュニティーサイト

mixi × あじさい
AGORA

参加コミュニティの最新書き込み

1件～5件を表示

| |
|---|
| あじさいAGORA 【キャリア】ワークライフバランスの話題がTEDで、感想を聞かせて下さい。(0) 15:46 |
| あじさいAGORA 【キャリア】働く若い女性のパワーを感じてきました(ご報告)(0) 15:26 |
| あじさいAGORA 【家庭全般】家事支援を頼むってどんなですか？(3) 07月04日 |
| あじさいAGORA 【先輩医療】女性医師の就労難易度は医師不足の解消に貢献する？Yes or No(2) 06月27日 |
| あじさいAGORA 【先輩医療】複数主治医制、どう思う？(1) 06月15日 |
| あじさいAGORA 【先輩医療】24時間体制についてどう思う？賛成 or 反対(3) 06月15日 |

AGORA（アゴラ）とは広場という意味です。
気軽に集まって、話ができる場所をつくりました。



2. 活動報告

1) あじさいプロジェクト ホームページからの発信

The screenshot shows the homepage of the Ajisai Project. It features a central graphic with a rainbow, a bee, and a frog, surrounded by clouds. The main menu includes 'Home', 'Inquiry', 'Site Map', and 'Goodbye'. Below the menu are sections for 'Careers Support', 'Work-Life Balance Center', and 'Community Information Site' (mixi x AGORA). A sidebar on the right provides news and information about the project's activities.

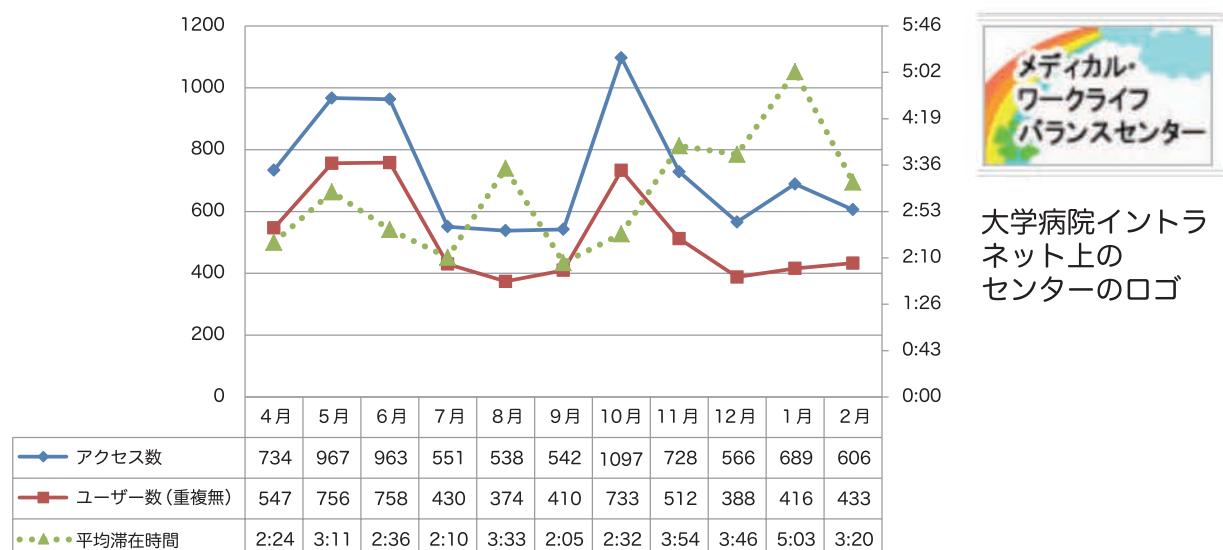
あじさいプロジェクト ホームページは、メディカル・ワークライフバランスセンター開設と共に始まり、県内の医療機関の医師・長崎大学病院に勤務する医療人にとって、働きやすい環境を整備する、ワークライフバランスに基づいた働きがいや働く上での幸福を感じられる職場つくりを目指すための施策など、情報発信をしています。

情報発信の3つの柱、キャリアサポート、ワークライフバランス実現を目指す病院の取り組み、地域就労支援情報をクリックして、それぞれの情報へ。

下記グラフは、このホームページへのアクセス数を月別に表しています。

重複除外アクセス数 5,757件、重複含む月平均アクセス数 725.5件（2月28日現在）

大学職員にとってアクセスを考慮し、インターネットにはメディカル・ワークライフバランスセンターホームページ開設（あじさいプロジェクトにリンク）しました。



2) キャリアサポート

キャリアを継続するために、自分らしく仕事をするために、ライフステージに応じた働き方と一緒に考えていきます。

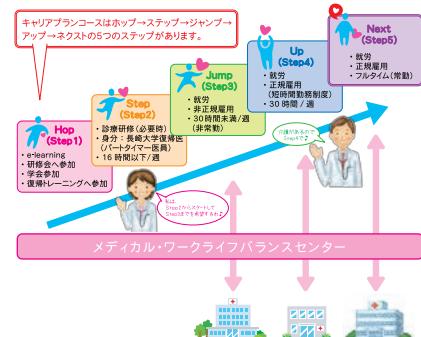
2-1) キャリアコンサルティング

メディカル・ワークライフバランスセンターでは、出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ、キャリア支援のためのコンサルティングを行っております。あじさいAGORAにご登録いただく方法のほか、担当のコーディネーターによるコンサルティングにもお申込いただけます。

相談受付票 内訳集計結果 3/7 時点

| | 合計 | | 2012年 | 2013年 |
|--|----|----|-------|-------|
| | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 相談方法 | 14 | 11 | | |
| センター来訪 | 5 | 3 | | |
| 電話 | 4 | 6 | | |
| メール | | 1 | | |
| その他 (放射線部副長部室) | 5 | 1 | | |
| 相談時間 | 9 | 9 | | |
| 1分～30分 | 9 | 9 | | |
| 30分～60分 | 3 | 1 | | |
| 60分～90分 | 1 | 1 | | |
| 90分～120分 | 1 | | | |
| 120分以上 | | | | |
| 相談者 | 12 | 5 | | |
| 本人 | 12 | 5 | | |
| 家族 | | | | |
| その他 (諫早健保、医局、市民病院、NTT西日本長崎、県医師会、個人病院) | 2 | 6 | | |
| 相談経路 | 5 | 2 | | |
| 紹介 | 5 | 2 | | |
| ホームページ | 2 | | | |
| イベント | | | | |
| その他 (新聞) | 7 | 9 | | |
| 性別 | 5 | | | |
| 女性 | 14 | 6 | | |
| 年齢層 | | | | |
| 20代 | | | | |
| 30代 | 1 | 1 | | |
| 40代 | 3 | | | |
| 50代 | | | | |
| 60代 | | | | |
| 不明 | 10 | 10 | | |
| 勤務形態 | 3 | | | |
| 常勤 | 7 | 3 | | |
| 非常勤 | 3 | 1 | | |
| 研修医 | 2 | | | |
| 医学生 | | | | |
| その他 | 2 | 7 | | |
| 相談内容 | 3 | | | |
| キャリアについて | 1 | 3 | | |
| 就労支援 | 4 | 3 | | |
| 産前産休育休について | 4 | | | |
| 介護について | | | | |
| 支援メニューについて | 1 | | | |
| 職場環境について | 2 | | | |
| 対人関係について | 1 | | | |
| その他 (求人、マタニティ白衣、不妊) | 1 | 5 | | |
| 相談回数 | 10 | | | |
| 初回 | 11 | 10 | | |
| 2回目以上 | 3 | 1 | | |

【あじさいプロジェクト キャリアプランコース】



【申し込み方法】

- ①下記のフォームよりお申込くださいか、事務局へ直接お電話ください。
- ②後日、窓口担当からご連絡し、担当コーディネーターと面談の日程調整を行います。
- ③面談後、ご自身に合ったキャリアプランの作成をお手伝いします。

お問い合わせ・お申込みフォーム
(一般・学生向)

| | | |
|---|---|----------------------|
| 氏名(必須) | 姓 | 名 |
| ふりがな(必須) | せい | めい |
| 住所 | 〒 | 例)852-8501 [郵便番号] |
| ※キャリアサポートコンサルティングと地域医療機関への復職を希望される方は必ず記入ください。 | | |
| メールアドレス(必須/半角英数字) | | |
| メールアドレス確認用(必須) | ※確認のためにメールアドレスをもう一度ご入力ください。 | |
| 種別(必須) | <input type="radio"/> 一般 <input type="radio"/> 学生 | |
| 下記内容にお申込みされますか? | | |
| <input type="checkbox"/> キャリアサポートコンサルティング(担当コーディネーターによるコンサルティング) <input type="checkbox"/> 地域医療機関への復職サポート(地域医療機関へ復職を希望される方) <input type="checkbox"/> あじさいプロジェクト サポーター候補への申し込み <input type="checkbox"/> お問い合わせ内容 | | |
| <input type="checkbox"/> キャリアサポートについて <input type="checkbox"/> 演習トレーニングについて <input type="checkbox"/> あじさいプロジェクト事務局について <input type="checkbox"/> 施設医療支援情報について <input type="checkbox"/> 地域就労支援について | | |
| お問い合わせの内容をできるだけ詳しくお書きください。 | | |

2-2) 復職&リフレッシュトレーニング

第1回 急変時対応

対象：長崎県在住の復職を希望する医師

長崎大学病院に所属し、復職希望の看護師も可

内容：患者の急変時を想定した実技と講義

【目的】心肺停止時の対応と、心肺停止に至らせない為の対処が出来るようになる

【目標】・ガイドラインに沿った心肺蘇生ができるようになる

・心肺停止前の状態を把握できる

日時：2012年9月24日（月）10:00～11:30

講師：長崎大学病院 救命救急センター 山下和範先生

場所：長崎大学病院シミュレーションセンター（外来棟7階）

復職支援トレーニング第1回は、絶対に救命救急センターの山下和範助教に「急変時対応」をお願いしたいと決めていたところ、講師をすぐに快諾していただきました。

シミュレーション室で、医学教育用シミュレータ・トレーニングモデルを使った実技訓練も行いながら、イキイキとトレーニングを受けるみなさんの表情は明るかったです。受講者同士の交流もいい感じでした。



託児室もご用意しましたので、小さなお子様がいても安心して保育サポーターへ預けてトレーニングに参加できます。

平成24年度

第1回 復職支援トレーニング

高機能シミュレーターを用いた
急変時対応

育児・介護等で休職・離職中の医師が、ブランクを心配することなく復職するための研修プログラムです。仕事と家庭を両立しながらキャリアアップを目指すあなたを応援します！

対象 長崎県在住の復職を希望する医師
長崎大学病院に所属し、復職希望の看護師も可

内容 患者の急変時を想定した実技と講義

目的 心肺停止時の対応と、心肺停止に至らせない為の対処が出来るようになる

目標 ・ガイドラインに沿った心肺蘇生ができるようになる
・心肺停止前の状態を把握できる

日時 平成24年9月24日(月) 10:00～11:30

講師 長崎大学病院 救命救急センター 山下和範先生

場所 長崎大学病院シミュレーションセンター（外来棟7階）

お申込 平成24年9月14日(金)迄に、あじさいプロジェクトホームページより申込書に必要事項を明記のうえ、メールまたはFAXにてお申し込みください。

定員 8名（定員になり次第締め切らせていただきます）

託児室 ご用意しております。

参加費 無料

※トレーニングを修了された方には、修了証書をお渡します。

お問い合わせ・申込先 長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

電話&FAX: 095-819-7979 (内線 7979) メール: info01@nagasaki-ajisai.jp
URL: <http://nagasaki-ajisai.jp/careersupport/re-training>

主催: 長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

共催: 長崎県医師会 協力: 医療教育開発センター

1次救命処置（Basic Life Support; BLS）の流れにそって、1人1台ずつシュミレーターを使って胸骨圧迫のペース、圧迫加減を確認

2人で交代する際は、中断を極力しない工夫を！など

みなさん真剣に取り組まれていました。



参加者の声

- ・少人数制で、先生とも質問したり会話できたのでとてもよかったです。また機会があればぜひ参加したい。
- ・ポイントを見逃さず対応できるステップを教えていただき、ありがとうございました。
- ・自分ではなかなか勉強しないので、こういう機会がありますがいい。
- ・ちょうど参加できる時間帯で助かりました。ぜひまた参加したいと思います。ありがとうございました。

第2回 輸液のはなし

対象：長崎県在住の休職・離職中の医師および長崎県内の医療機関に勤務している医師で輸液に関する知識を整理したいと考えている方

内容：セミナー形式（アンサーパッドを使用します）

- 【目的】**
 - ・どういうときに輸液が必要な状況なのかを判断できる
 - ・輸液が必要な場合、その組成を組み立てることができる

- 【目標】**
 - ・体液の分布が理解できる
 - ・輸液したものが、どこに分布するのかがわかる
 - ・輸液に特別な配慮が必要な各病態が理解できる

日時：2012年11月12日(月) 15:00～16:00

講師：長崎大学病院 医師育成キャリア支援室 小畠陽子先生

場所：長崎大学病院シミュレーションセンター（外来棟7階）

平成24年度 第2回 復職支援トレーニング 知って得する 輸液のはなし

育児・介護等で休職・離職中の医師が、ブランクを心配することなく復職するための研修プログラムです。仕事と生活を両立しながらキャリアアップを目指すあなたを応援します！

対象 長崎県在住の休職・離職中の医師
および長崎県内の医療機関に勤務している医師で
輸液に関する知識を整理したいと考えている方



臨床の感覚を忘れ、
現場に戻るのが怖いなど、
悩みを共有できる先生と
出会えるかしら？

内容 セミナー形式（アンサーパッドを使用します）
【目的】

- ・どういうときに輸液が必要な状況なのかを判断できる
- ・輸液が必要な場合、その組成を組み立てることができる

【目標】

- ・体液の分布が理解できる
- ・輸液したものが、どこに分布するのかがわかる
- ・輸液に特別な配慮が必要な各病態が理解できる

日時 平成24年11月12日(月) 15:00～16:00

講師 長崎大学病院 医師育成キャリア支援室 小畠陽子先生

場所 長崎大学病院シミュレーションセンター（外来棟7階）

お申込 平成24年10月31日(水)迄に、あじさいプロジェクトホームページより申込書に必要事項を明記のうえ、メールまたはFAXにてお申し込みください。

託児室 ご用意しております。

参加費 無料

駐車券 長崎大学病院内駐車場をご利用の方は
100円駐車券をご用意します。

※トレーニングを修了された方には、
修了証書をお渡しします。

お問い合わせ・申込先 長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

電話&FAX: 095-819-7979 (内線 7979) メール: info01@nagasaki-ajisai.jp

URL: <http://nagasaki-ajisai.jp/careersupport/re-training>

主催: 長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター

共催: 長崎県医師会 協力: 医療教育開発センター

小畠先生の講義では、輸液について基本的な話のあと、提示された症例について、参加者に診断と対処法を考えもらいながら、理解を深めるように進めていました。



最後に修了証を授与
センターの活動についても説明しました

参加者の声

- ・ 基本的な事を復職支援トレーニングで学んでいきたい。
- ・ 基本の確認に役立った。勉強しながらそうと思った。
- ・ 一人で書籍を購入して勉強するのは大変なので、専門の医師の講義を聴けてとてもありがとうございます。前回開催の『急変時対応』は出席できなかつたので、再度開催してほしい。
- ・ 興味のある医師はもっといると思いますが、都合が合わないのと、思い切って参加できないのでは・・・と思います。

第3回 胸部単純エックス線写真

対象：長崎県在住の休職・離職中の医師および長崎県内の医療機関に勤務している医師で「胸部単純エックス線写真」読影に関する知識を整理したい方

内容：講義形式

- 【目的】
 - ・胸部単純写真の基本を復習
 - ・胸部単純写真の利点、弱点の理解
 - ・単純写真のみで診断しうる疾患について学ぶ
 - ・単純写真からCT画像を想像する

日時：2013年1月29日(火)10:00～11:30

講師：長崎大学病院放射線科 林秀行先生

場所：長崎大学病院シミュレーションセンター（外来棟7階）

放射線科助教 林秀行先生は実際の症例を提示しながら、奥深い！胸部エックス線写真の読影のコツを丁寧に教えていただきました。

今回は、これまでの受講者と少し異なるメンバーであり、保健所勤務の放射線科OBも参加でした。

今からは、講師の先生の許可をいただき、ビデオ（録画）撮影をはじめました。DVD視聴を希望される方はセンターまでお問い合わせ下さい。

平成24年度

第3回 復職&リフレッシュ支援トレーニング

読影のコツ、ポイントを探る

胸部単純エックス線写真

育児・介護等で休職・離職中の医師が、ブランクを心配することなく復職するための研修プログラムです。仕事と生活を両立しながらキャリアアップを目指すあなたを応援します！

対象 長崎県在住の休職・離職中の医師
および長崎県内の医療機関に勤務している医師で「胸部単純エックス線写真」読影に関する知識を整理したい方

内 容 講義形式

【目標】

- ・胸部単純写真の基本を復習
- ・胸部単純写真の利点、弱点の理解
- ・単純写真のみで診断しうる疾患について学ぶ
- ・単純写真からCT画像を想像する



臨床の感覚を忘れ、現場に戻るのが怖いなど、悩みを共有できる先生と出会えるかしら？

日 時 平成25年1月29日(火) 10:00～11:30

講 師 長崎大学病院 放射線科 林秀行先生

場 所 長崎大学病院シミュレーションセンター（外来棟7階）

お申込 平成25年1月22日(火)迄に、あじさいプロジェクトホームページより申込書に必要事項を明記のうえ、メールまたはFAXにてお申し込みください。

託児室 ご用意しております。

参 加 費 無 料

※トレーニングを修了された方には、修了証書をお渡しします。

お問合せ・申込先 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター

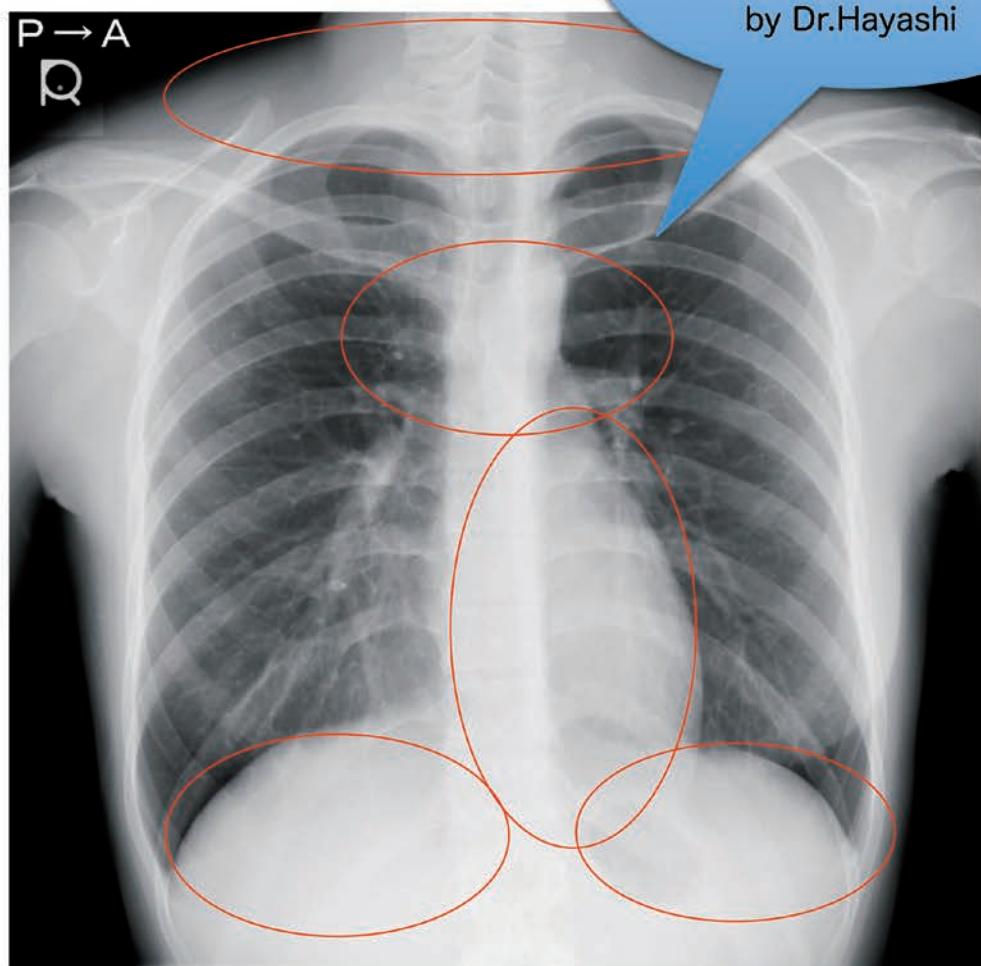
電話 & FAX: 095-819-7979 (内線 7979) メール: info01@nagasaki-ajisai.jp
 URL: <http://nagasaki-ajisai.jp/careersupport/re-training>

主催: 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
 共催: 長崎県医師会 協力: 長崎大学病院医療教育開発センター

- 16 -

たくさんのスライドの中から1枚…

異常を見逃しやすい部位



肺野の3割は隠れている
なるべく隠れているところが少
ない写真が良い！

by Dr.Hayashi



参加者の声

- ・再確認できました。
- ・しばらくぶりで、何がわからぬのか、わからない状態だったので、胸部単純エックス線写真の限界を知ることができ、今後自学自習がしやすくなりました。
- ・大学院進学中に、成人、小児問わず医学を再復習しようと思います。
- ・とても勉強になりました。

第4回 PART1 明日からの診療を変える！咳の鑑別 PART2 要注意！！アスピリン喘息のウソ、ホント

対象：長崎県在住の休職・離職中の医師
および長崎県内の医療機関に勤務している医師で
テーマに関する知識を整理したい方

内容：講義形式
Part1：明日からの診療を変える！”咳の鑑別”
Part2：要注意！！アスピリン喘息のウソ、ホント

日時：2013年3月11日(月) 10:00～11:15

講師：長崎大学病院臨床研究センター センター長 福島千鶴先生
場所：長崎大学病院シミュレーションセンター（外来棟7階）

平成24年度 第4回あじさいプロジェクト

復職＆リフレッシュ トレーニング

育児・介護等で休職・離職中の医師が、ブランクを心配することなく復職するための
研修プログラムです。仕事と生活を両立しながらキャリアアップを目指すあなたを
応援します！また、在職中の医師の方もリフレッシュトレーニングができます。

あじさいプロジェクト
NAGASAKI AJISAI PROJECT

Part1 【講義形式】
明日からの診療を変える！“咳の鑑別”

Part2 【講義形式】
要注意!!アスピリン喘息のウソ、ホント

対象 長崎県在住の休職・離職中の医師および長崎県内の医療機関に勤務している医師で
テーマに関する知識を整理したい方（男女問わず参加可能です。）

2013.3.11 月

10:00～11:15 長崎大学病院
シミュレーションセンター（外来棟7階）

託児室をご用意しております

■講師
長崎大学病院
臨床研究センター
センター長
福島 千鶴 先生

| | | |
|--|--|-------------|
| お申込 | 平成25年3月4日(月)迄に、あじさい プロジェクトホームページより申込書に 必要事項を明記の上、メールまたはFAX にてお申し込みください。 | お問合せ 申込先 |
| 長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター 電話&FAX: 095-819-7979 (内線 7979) メール: info01@nagasaki-ajisai.jp URL: http://nagasaki-ajisai.jp/careersupport/re-training | | |

※トレーニングを修了された方には、修了証書をお渡しします。

主催 / 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
共催 / 長崎県医師会 協力 / 長崎大学病院医療教育開発センター

セミナー形式でも講習生とのインターラクションが十分に盛り込まれた講義でした。



咳嗽の診断におけるポイント

★予後に大きくかかわる疾患(悪性腫瘍など)、人に影響を与える疾患(肺結核など)は常に頭においておく

★明らかな誘因がある場合は取り除く(喫煙、薬剤など)

★詳細な病歴聴取で診断を推測する

- ・急性咳嗽か慢性咳嗽か
- ・湿性咳嗽か乾性咳嗽か
- ・咳嗽の特徴(頻度が高い疾患を鑑別する)
咳嗽・アトピー咳嗽、胃食道逆流、感染後咳嗽、副鼻腔気管支症候群など

★治療前診断→疾患特異的な治療(診断的治療)→治療後診断、臨床的確定診断→維持治療(無効な場合は更に精査、あるいは専門家へ紹介)

★薬剤の効果判定は、薬剤が適切に使用されている事が前提



福島千鶴先生、お忙しいのにありがとうございます

アスピリン喘息におけるポイント

- ・アスピリン喘息は、アスピリンだけが使用できないのではない
・内服薬のみとは限らない
- ・アスピリン喘息は喘息患者の約10%である
- ・病歴聴取が重要である
- ・ステロイド注射薬の急速静注は行わない
- ・プロムヘキシン塩酸塩(ビソルボン 吸入液)を使用しない

参加者の声

自分の専門分野でしたが、改めて講義を聞いて再確認でき、よく理解できました。普段臨床で活用してないと忘れてしまいがちなので、とてもためになりました。ありがとうございます。
今回のように、少し自分の考え(診断)を書いてみよう!というやり方は、聞くだけの講義より身になるし、記憶に残りやすいように感じた。
内科からかなり遠ざかっていたので、とても参考になりました。

3) 支援メニュー

子育てや家事などの役立つ支援、ワークライフバランスの学習などを体験することで、支援を受けながら仕事が継続できることを知ってもらいたいと思います。あじさいAGORAにご参加いただき、キャリア相談又は研修に参加された方を対象にお得なワークライフバランス支援体験メニューにお申し込みいただけます。



次のメニューを2つまで申請できます。

1. 子育てタクシー利用費の補助
2. 家事代行・シッター経費の補助
3. ワークライフバランス関係の研修会・学会への参加費・旅費補助

【対象者】下記条件

1. 長崎県内在住
2. あじさいAGORAに登録している方
3. キャリア相談をされた方、又は、研修に参加された方

| 利用者内訳 | | | 【1】子育てタクシー | 【2】家事代行・シッター | 【3】研修会・学会への参加費、旅費 |
|-------|------|------|------------|--------------|-------------------|
| 年齢 | 勤務状況 | 家族構成 | 支援メニュー 1つめ | 支援メニュー 2つめ | |
| 41 | 在職中 | 夫・子1 | 1 | 1 | |
| 37 | 離職中 | 夫・子3 | 1 | 1 | |
| 33 | 在職中 | 夫・子2 | 1 | 1 | |
| 41 | 在職中 | 夫・子2 | 1 | 2 | |
| 33 | 在職中 | 夫・子2 | 1 | 1 | |
| 33 | 在職中 | 夫・子2 | 1 | 1 | |
| 32 | 在職中 | 夫・子3 | 2 | 2 | |

たくさんの感想をいただきました。代表の声です。

乳児のワクチン接種の往復に利用しました。補助していただいたので、躊躇なくタクシーを利用しました。ありがとうございました。自家用車で無理して行かなくてもすみました。子連れだとやはり荷物も多いし、ドアtoドアはやはりよいです。運転手さんが見ていてくださるので、帰りにはコンビニに寄ったりできたのはちょっと嬉しかったです。特にこの季節は感染症が気になるので乳児連れでは気軽に買い物には行けませんからね。それから以前よりタクシーを利用するときにどうもチャイルドシートがないことが気になっておりましたので、安全面でも安心です。これから子らが大きくなつて急に迎えに行けなくなつた時など利用したいと思います。（在職中・子1人）

4) 大学病院内の支援

各診療科ごとの支援情報

医科系診療科毎に、種々の医師の就労支援情報をあじさいプロジェクトホームページで公開しています。

あじさい保育園

坂本地区にある「あじさい保育園」は、大学病院職員、医学部大学院学生小学校就学の始期に達するまでの乳幼児（定員30名）をお預かりしています。病後児保育、週1回の24時間保育も行っています。入園希望者が多く、4月から定員を増やして対応する予定です。



〒852-8102
長崎市坂本町1丁目8-22
財団法人 輔仁会会館2階・3階
TEL;095-819-7527

ホスピレート

内閣府認証NPO法人ejnetは、「働きやすい病院」評価・認証事業をおこなっています。「ホスピレート」とは女性医療スタッフにとって働きやすい環境を提供するだけではなく、すべての病院職員にとって働きやすい病院として認定される病院に贈られるものです。

長崎大学病院は2011年にホスピレート認証（働きやすい病院）を取得しました。取得は全国で第16号であり、大学病院のなかでは2番目です。



マタニティー白衣貸し出し

島根大学産学連携センター地域医学共同研究部門が、広島市の日昇産業と雲南市（島根県）の大東白衣との共同研究で開発された医師用マタニティ白衣（Sサイズ、Mサイズ）をセンターで貸し出しています。

ダブル仕立てのコートタイプ白衣で、妊娠初期から臨月まで対応できる「ウエストの調節機能」や、お腹が大きくなても目立たない「デザイン」など、普通の白衣にはない特徴があります。3名の方が利用されました。



利用者の声

夏場の妊婦には生地が厚すぎて高め設定（27～28度）のエアコンの中にいると非常に暑かったです。他院にサイトビジット行く際にきちんと着れる手持ちの白衣がありませんでしたのでとても助かりました。おしゃれでした。



5) 医局訪問

各診療科の現状と抱えている問題を知るために、各医局を訪問しました。当センターの目的と活動内容を説明して、いろんなご意見もいただきました。

| 日時 | | 診療科 |
|-------------|-------------|----------------|
| 5/21 (月) | 15：00～15：20 | 総合診療科 井上先生 |
| | 15：30～15：50 | 整形外科 古川先生 |
| | 16：00～16：20 | 第二外科 高槻先生 |
| | 16：30～16：50 | 精神科神経科 木下先生 |
| 5/22 (火) | 15：00～15：20 | 心臓血管外科 橋詰先生 |
| | 15：30～15：50 | 産婦人科 吉田先生 |
| | 16：00～16：20 | 第二内科 山本先生 |
| | 16：30～16：50 | |
| 5/24 (木) | 15：00～15：20 | 循環器内科 池田先生 |
| | 15：30～15：50 | 眼科 築城先生 |
| | 16：00～16：20 | 脳神経外科 角田先生 |
| | 16：30～16：50 | 形成外科 吉本先生 |
| 5/28 (月) | 15：00～15：20 | 皮膚科 竹中先生 |
| 5/30 (水) | 15：00～15：20 | |
| | 15：30～15：50 | |
| | 16：00～16：20 | 放射線科 林先生 |
| | 16：30～16：50 | 泌尿器科 大仁田先生 |
| 5/31 (木) | 15：00～15：20 | 耳鼻咽喉科 石丸先生 |
| | 15：30～15：50 | 原研内科 對馬先生 |
| | 16：00～16：20 | |
| | 16：30～16：50 | 麻酔科 吉富先生 |

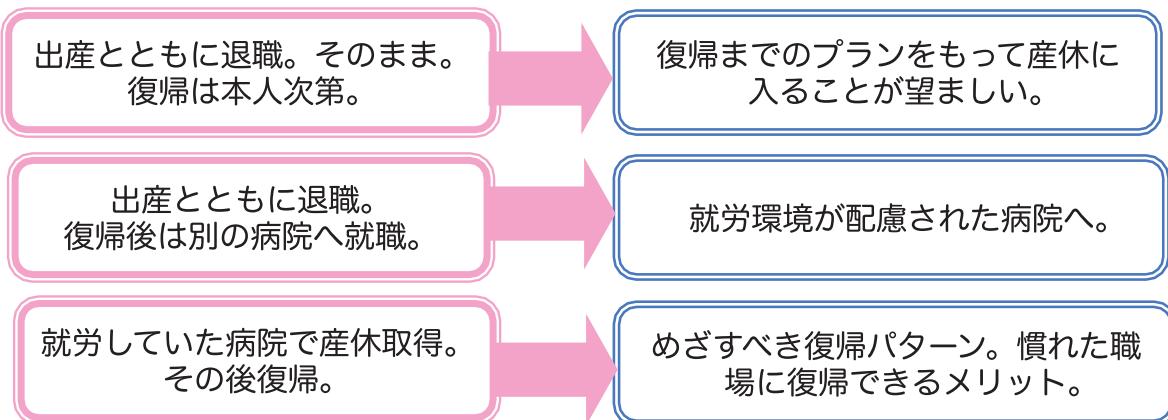
| 日時 | | 診療科 |
|-------------|-------------|----------------|
| 6/5 (火) | 16：00～16：20 | 熱研内科 古本先生 |
| | 16：30～16：50 | 消化器内科 大仁田先生 |
| | | |
| 6/11 (月) | 15：00～15：20 | |
| | 15：30～15：50 | 救命救急 山下先生 |
| | 16：00～16：20 | 第一内科 阿比留先生 |
| | 16：30～16：50 | 小児科 本村先生 |
| | 17：00～17：20 | 第一外科 山崎先生 |

お忙しい中、面談の時間を作っていただきました担当の先生方、本当にありがとうございました。
お話しできた内容は、その後の私達の活動の参考になりました。

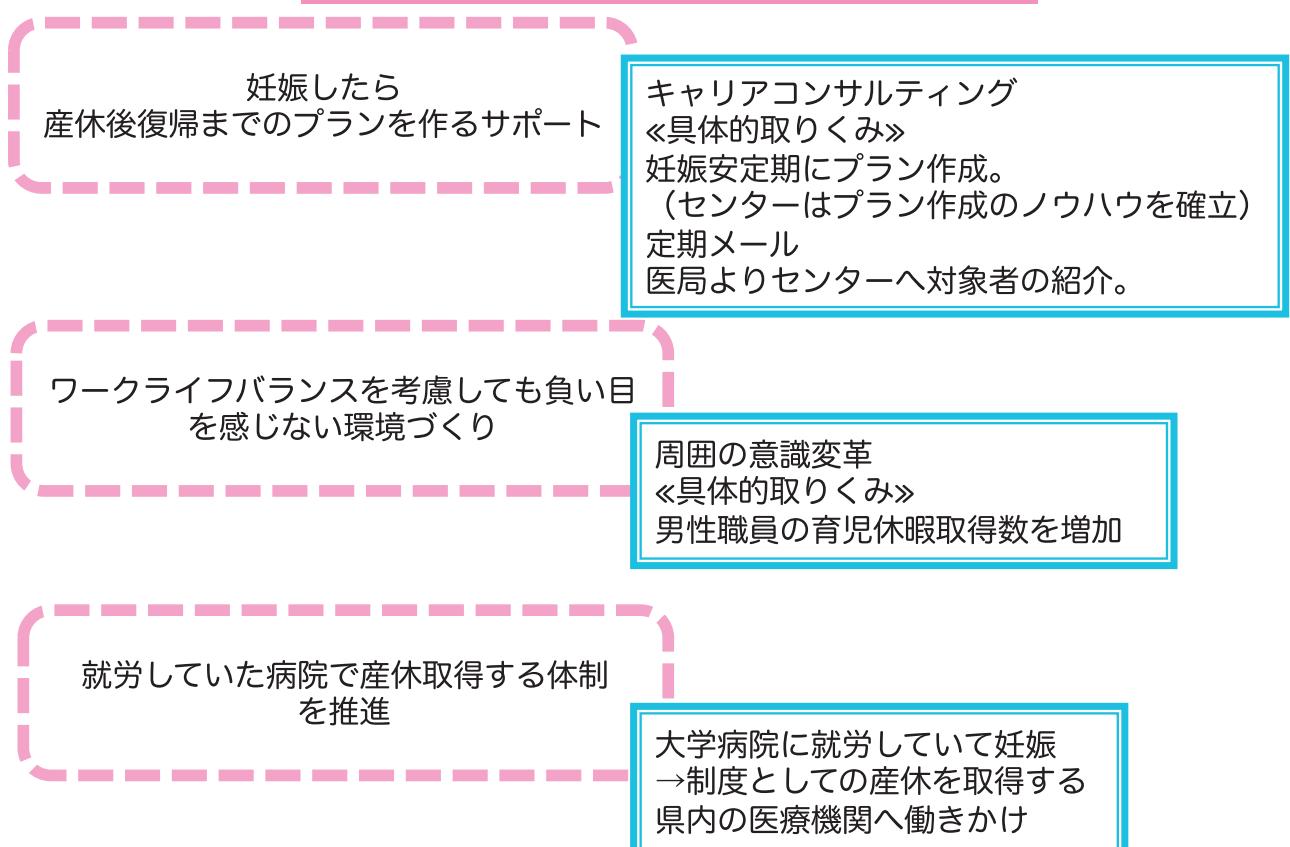
先生方もセンターをご利用下さるきっかけになったと思います。
これからも、どんどんご利用下さい。

医局訪問で見えたこと

出産・育児時期の女性医師のキャリアパターン



医局訪問から見えたセンターの役割





6) 地域医療機関訪問取材、 インタビュー

第1回 長崎記念病院

6月18日（月）地域医療現場での女性医師の就労支援実態調査と、メディカル・ワークライフバランスセンターへの活動要望・ご意見をお伺いするため、長崎記念病院へ行ってきました。福井理事長より、「長崎市内の医師の偏在について」と、「医療インフラの不備は地域を衰退、崩壊させる」とのお話をいただきました。長崎記念病院では、育児支援としての休業の取り方、保育所、預かり保育、また希望に応じた就労形態（短時間、健診中心等）も考慮されていました。

センターへの要望として、①就労環境の実態把握②離職者の把握 等があがりました。今後も県内の医療機関を訪問させていただき、どのようなサポートニーズがあるのか、探っていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

| | |
|---------------------|---|
| 診療科 | 内科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 小児科 泌尿器科 リハビリテーション科 放射線科 |
| 仕事と生活の両立に配慮した職場環境 | 時間短縮勤務制【正規職員】パートタイム制 当直免除 院内保育園 育児休業・介護休業等、長期休暇取得後の現場復帰 |
| バックアップ体制のもとで行える診療行為 | 外来 検査 手術 健診・検診 病棟 |
| 生涯学習への配慮 | 院内カンファレンスへの参加 学会・研究会参加への補助 図書館の整備 文献検索・インターネットアクセスの整備 |



院内保育園

第2回 上五島病院

第2回は上五島病院の訪問（9月3日）です。離島でありがちな医師不足に対応すべく、「**支援制度は利用した方がよいし、利用してもらった方が復帰につながる**」と、八坂院長は働きやすい職場を病院全体の団結力で築いてこられたことが感じられました。

院長 八坂貴宏先生をはじめ、育休中の内科医 友廣真由美先生、内科医長 本田徹先生、1歳7ヶ月のお子さんの育児中でフルタイム勤務の産婦人科医 山口純子先生、長崎医療センターから代替医師として半年間 上五島病院で勤務している産婦人科医 山下洋先生にお話をお聞きしました。

八坂院長へのインタビューから

院長から提案：みんながhappyな産休・育休の取り方

ポイント1 4月から復帰

ポイント2 あまり長く休まない。1年間程度がベスト。

勤務形態の考慮や代わりとなる医師の確保を考えると、人事異動をしやすい4月に復帰というプランを立てるとみんながhappy。休む期間は1年間程度がよいと思います。あまり早く復帰して、不安を抱えたまま仕事をしてもよくないでしょうし、1年という期間であれば自分の勘や知識が残っている。また、復帰したときの周囲との関係も良好だと思います。だから……、6～9月の間に出産というのがいいかな。

Q.上五島病院では復帰後の勤務はどのような形態が可能でしょうか？

「夜勤のない時短勤務が可能」

復帰する際には、短時間正規雇用制度の利用をお勧めします。いわゆる「時短」です。非常勤雇用でももちろん対応できます。

上五島病院は附属診療所（有川医療センター、奈良尾医療センター）があるので、復帰してしばらくは夜勤のない診療所で短時間正規雇用として勤務し、週1～3回上五島病院の外来ということが可能です。

実は、そういう形で勤務してもらえると大変助かります。医師数が少ない中、附属診療所もカバーするためには、卒後3～4年目の後期研修医も含めて対応せざるを得ないという状況があります。しかし、後期研修医の時期は、できればある程度大きな病院で経験を積んだほうが望ましい。そのため、有川医療センターなどで外来を受け持つ医師が一人でも多いということは、大変メリットがあります。

病院で働く場合も、夜間や休日は長崎や東京からもバックアップしてもらっていますので、当直免除で働くこともできます。

その他、さまざまな勤務形態が可能です。例えば、島外に住んでいるのであれば、日帰りで来て検診業務や診療所の外来業務。移動には今年から運行している医師派遣ヘリコプターの利用も可能です。

Q.最後に、女性医師の就労支援など、医師のワークライフバランス支援の経営上のメリットについて、どのようにお考えでしょうか？

医師不足の中での医師確保、医療法上の医師定数確保が期待できます。女性医師が働くことで女性患者への医療サービスの向上も期待できます。上五島病院ではまだ実現していませんが、女性外来など、人生経験を積んだ女性医師が活躍する場になるのではないかでしょうか。



現在、2歳と3ヶ月の二人のお子さんがいらして、育児休業中の先生にお尋ねしました。

Q.上五島病院での支援を紹介してください。

院内託児所があり、夜間保育・病児保育も行っています。以前は夜間保育や病児保育はなかったのですが、託児所利用者の要望によって、少しづつ託児所のシステムは改善しているようです。最近では1年ほど前から、病児保育の子の処方を、院内処方にしてもらうことができるようになりました。病児保育利用時は、託児前に小児科の診察を受ける必要があります。診察後、就業中に院外薬局まで行くことは難しいので、院内処方だととても助かります。

内科診療科長へのインタビューから

患者さんとしては主治医に週末も病院に来てほしいという要望があるし、主治医も、自分が主治医だからという思いが強く、土日も責任感のもと来るいう傾向もあります。土日は当番制なので来なくて当たり前という社会になってほしい。当番でもないのに何で来ているの？と変に思うくらいメリハリがつけられる社会になっていかないと、ワークライフバランスの実現は難しいのでは。母親の子育ては社会として優遇されるべきものですが、その子育て・家族とのふれあいを犠牲にして働いている社会人が多い現実からも目を背けられないですね。子育て中の女性医師だけ優遇されるような仕組みはおかしいので、男性医師、子育て中でない女性医師も含めた医師全体のワークライフバランス実現に取り組んでほしいです。

1歳7ヶ月のお子さんをお持ちでフルタイムで勤務中の産婦人科の先生にお話しをお聞きしました。

ライフプランとしていつ出産しようか考えるというのは女性医師だけでなく、日本人みんなが若い時から考えてほしいと思います。現在、晩婚化・晩産化が進んで、不妊症の患者さんも増加しています。不妊外来で、年齢が高齢になるにつれ妊娠の可能性が低くなるということをはじめて知った、という方もいました。性教育では、どうしても避妊に焦点がいきがちではありますが、不妊症についてなどのライフプランを考えるための知識を教える必要があるのではないかと思います。もちろん若年者に増加している子宮頸がんなど、婦人科疾患の知識についてもです。子供は本当にかわいく、まさに子宝とはよく言ったものだとおもいます。たくさんの宝にできる産婦人科医という職業はとても幸せだと思っています。仕事と育児の両立は本当に大変ですが、これからも頑張っていきたいです。



第3回 長崎北病院

第3回目の地域医療機関訪問取材・インタビューは、長崎北病院です。

働く医師のうち女性が約3割と多い長崎北病院。佐藤院長先生からの病院の紹介

長崎北病院では、特に特別な支援をしている訳ではありませんが、20年くらい前から女性医師が継続して働いていて、子育て後も復帰され常勤で勤務しているロールモデルがいるというのが大きいと思います。また周囲の男性医師達も理解があるので働きやすいのだと思います。

優秀な医師に長く勤めてもらいたいと考えていますので両立しやすい環境が自然にできあがってきて、子育てを理由とした離職率は低いです。



11ヶ月間の育休後に、短時間勤務で復帰した経験のある循環器内科の先生に話を聞きしました

Q.復帰した理由は何でしょう？

副院長をはじめ女性医師で子育てしながら働き続けている方が多いので、復帰するのがふつうだったと思います。

Q.病院の支援ではどんなところが助かっていますか？

病院独自の取り組みというのではないように思います。産休・育休を取りやすい環境があり、また保育園にあづけながら働ける環境があります。早く帰ることに気兼ねする雰囲気があると仕事もしづらいですが、ここではそういったことがありません。

Q.子育て中の女性医師へメッセージをお願いします

子供が小さく手のかかる時期を乗り越えれば、あとは仕事でも子育てでも経験を積んで要領が掴めてくるので大丈夫。過ぎてしまえばあっという間ですよ。

院内の支援体制について勝野看護部長にお聞きしました。

当院では院内の委員会の中の教育担当部門に子育て支援担当職員を配置しています。育休中のスタッフにニュースレターメールを送りますし、復帰1か月半後に面談調整しています。

また、当院ではワークライフバランス推進チームを結成し取り組んでいます。もともと、月曜会と称して週1回定期的に、院長、副院長、事務長、リハ長、薬剤部長、看護部長参加でミーティングをしていますが、その中でワークライフバランス推進についても話し合います。話し合いの成果のひとつとして、先日院内保育園を開設することができました。



長崎北病院院内保育園
「サンキッズ」

看護部長さんからのこんなコメント

短時間勤務中の女性の先生は実は病棟看護師には人気だったりします。時間内に仕事を終わらせるために、計画的に業務を行ってくれるし、呼び出されないように先を読んで業務をこなされています。つまり指示が早いし、明確でわかりやすい。男性医師と比べて（笑）



7) 地域就労支援情報

地域就労支援情報では、長崎県内の医療機関の就労支援情報や、国の支援制度をご紹介しています。現在53医療機関が登録。登録した医療機関へは復職＆リフレッシュトレーニング、講演会など情報をお送りしています。

県内の医療機関とそこでの支援情報を検索できるシステムにしています。

【検索】は以下の項目で可能です。

診療科

仕事と生活の両立に配慮した職場環境

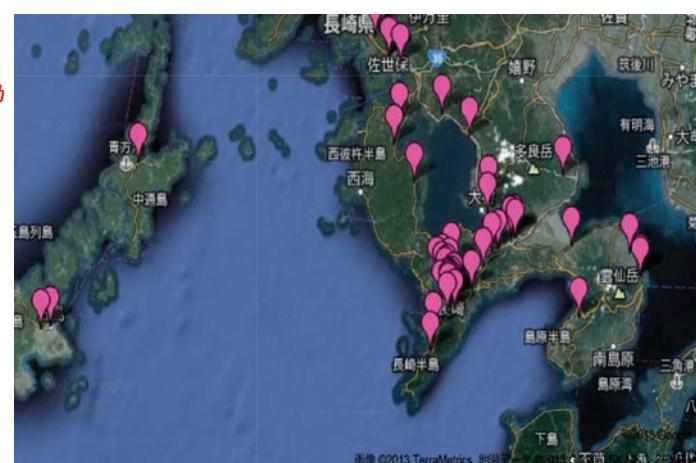
- 時間短縮勤務制
- パートタイム制
- フレックス制
- 家庭の事情等による急な勤務変更へのバックアップ体制
- 当直免除
- ベビーシッター費用援助
- 院内保育園
- 提携 院外保育園
- 病児保育
- 育児休業・介護休業等、長期休暇取得後の職場復帰
- 育児休業・介護休業中の給与を保障
- その他

バックアップ体制のもとで行える行為

- 外来
- 検査
- 手術
- 健診・検診
- 往診
- 病棟
- その他

生涯教育への配慮

- 院内カンファランスへの参加
- 学会・研究会参加への補助
- 図書の整備
- 文献検索・インターネットアクセスの整備
- その他





NAGASAKI AJISAI PROJECT
ながさき あじさいプロジェクト



仕事と生活の 両立を図りながら活躍する ドクターを応援します!

長崎大学病院
メディカル・ワーク
ライフバランスセンター

「あじさいプロジェクト」のホームページでは主に下記内容を掲載しています！是非チェックしてください。

地域の就労支援情報提供

- ・地域医療機関の就労支援が一目でわかる情報を公開
- ・国で行うサポート情報をご紹介

キャリアサポート

- ・キャリア支援のコンサルティング
- ・復職トレーニング等のご紹介
- ・キャリア継続の為のヒント満載の講演会や懇親会のご案内

モデルとなる病院の取り組み紹介

- ・モデルとなる病院から仕事と生活を両立する為の支援情報や制度についてご紹介

<http://nagasaki-ajisai.jp/>

あじさいプロジェクト 長崎

Search



《事務局》長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター 〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7番1号 TEL.095-819-7979

8) 家族のケータイフォトコンテスト

子どもと子育てを応援する社会の実現に向けて、子育て家族やその家族を支える地域の大切さについて理解を深めてもらうために、内閣府では、平成19年度から11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定められました。

「家族の日」にあわせて、長崎大学病院に勤務する職員を対象に『家族のケータイフォトコンテスト』を開催しました。応募総作品数67点と予想を上回る多数のご応募がありました。応募作品に対して投票サイトを通して公開審査を行い、約300人による審査の結果、受賞8作品が選ばれました。いずれも力作ぞろいで、審査員の先生方も選考に苦慮されていました。

受賞8作品は、11月12日（月）～11月末日まで長崎大学病院玄関ロビー内掲示板にて発表しました。

ひーおばあちゃんが
来たよ～♪
おめでて～♪

ここがワタシの
特等席！

家族のケータイ フォトコンテスト

「家族の日」、「家族の週間」に合わせて、長崎大学病院メティカル・ワークライフバランスセンターでは、フォトコンテストを開催します！【家族】をテーマに、愛情にあふれた写真、かけがえのないを感じられる写真、我が家流の家族とのコミュニケーションの場面等の写真を募集します♪ご応募お待ちしております！！

応募要項

【応募対象】長崎大学病院に勤務する職員

【日 程】●応募受付期間 8月20日（月）～10月10日（水）
(応募多数の場合は第一次審査を行います。)
●投票受付期間 10月15日（月）～10月31日（水）
●審査期間 11月1日（木）～11月9日（金）
●発表・受賞作品掲載期間 11月12日（月）～11月30日（金）
●表彰式 11月下旬を予定

【応募方法】 必要事項をご入力の上、下記E-mailアドレスへ送信してください。
①お名前 ②所属部署 ③写真のタイトルとコメント(100字以内)
④審査および発表の際にニックネームをご希望される方は、
ニックネームをご入力ください。

【応募規定】 応募作品のファイル形式はJPEGで2MBまでとさせていただきます。
応募作品は未発表、未加工の物に限ります。
応募作品は当センターのカラシやHP等に使用させて頂く場合がございます。
応募作品の被写体の肖像権やその他の権利は、応募者の責任において適切に処理した上でご応募ください。
応募はお一人様5点までとさせていただきます。

【各 賞】 ★入賞作品は大学病院玄関ロビー内に掲示いたします！

| | | | |
|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| 特別賞 1名 | 病院長賞 1名 | 愛情いっぱい賞 1名 | 入賞(1等～5等) 各1名 |
| 図書カード 1万円分 | 図書カード 1万円分 | 図書カード 1万円分 | クオカード 3～5千円分 |

写真応募 受付期間 8/20[月]～10/10[水]

主催 / メティカル・ワークライフバランスセンター
お問い合わせ ☎ 095-819-7979
あじさいプロジェクトHP - <http://nagasaki-ajisai.jp/>
協賛 / 勤仁会
あじさいプロジェクト実績 Search



特別賞「我が家の中の三段タワー♪」

それぞれが縁の下で持ち上げ、役割を果たしています

『審査委員長 講評』

肩車の上に肩車、意表を突かれました。親子の信頼と楽しい家族がみごとに表現されていますね！スカイツリーもびっくり。明るいみんなの表情もばっちり。写真構図もしっかりしています。



病院長賞「水中でハイポーズ」

家族旅行でプールに入った際のひとコマです。みんなで呼吸を合わせるのが大変でした

『病院長 講評』

水中でみんなで笑顔。なかなか撮れない写真ですね！感心しました。



愛情いっぱい賞「～太陽のように～」

すっかり季節は秋なのに、まだまだ頑張って咲いているひまわりを発見しました！大好きなひまわりのように、元気に明るい女の子に育つてね☆いつまでも、その笑顔を忘れないでね！

『センター長 講評』

お嬢ちゃん二人の笑顔がとても素敵ですね。ひまわりも嬉しそう！

私が大学生の時、当時はとても高価だったカメラ（今だと数千円ぐらい、でもその時は父親の数か月分の給与相当）を買ってもらってカメラ趣味をスタートしました。カメラ歴50余年です。写真館であらたまって家族写真を撮って、それが唯一の写真というのがごく普通の時代でした。

カメラが進歩して、皆が携帯電話やiPhone 内蔵のカメラを持ち歩き、日々に生活のなかで、当たり前のようにカメラを向けあう、昔を知る私にとって夢のような写真時代になりました。今回の募集に寄せられた沢山の携帯フォトを見ることができました。楽しい家族の雰囲気があふれるような、笑い声が聞こえてくるような、微笑ましい数々の写真でした。写真として優れた作品も多数ありました。ご応募ありがとうございました。機会あれば、腕を磨いておいて、また挑戦してください。

審査委員長 関根一郎



1等賞

「ちょっと振り
向いた時に」
立ち上がって振
り向いた時に
撮った1歳の娘
です。



2等賞

「川遊び」
この川、冷た～い！



3等賞

「思いやる双子」

最近お世話を覚えた妹。
双子の姉にお茶を飲ませて
嬉しそう(^-^)



5等賞

「ママは歯医者さん」



4等賞

犬も歯が命！毎日ママが磨いてくれるもん！

「笑いが止まりません」

関根一郎氏 写真集



関根一郎先生プロフィール
長崎大学名誉教授。
現在、長崎県赤十字血液センター所長
40年余勤めた長崎大学を定年退職する
にあたり、奥様と撮りためた花々を写
真集にした「道草」を出版。

入賞者の声

特別賞 応援ありがとうございました。これを機会により一層家族の絆が強くなったと思います。これからも「イクメン」の星になれるよう頑張つていこうと思います。

病院長賞 病院長賞を頂き、ありがとうございます。普段は仕事！仕事！で、あまりかまってあげられていませんが、夏休みの旅行での一コマで入賞。さらに思い出深いものとなりました。

愛情いっぱい賞 愛情いっぱい賞を頂きました。とても嬉しいです。子供たちに知らせると喜んでいました。写真を撮るのが好きなので、これからも愛情あふれる写真を撮っていきたいと思います！！ありがとうございます。

1等賞 今回、ケータイフォトコンテストで1等という大変すばらしい賞を頂きまして誠にありがとうございます。またホームページで投票していただいた方々にも御礼申し上げます。

2等賞 まさか自分の写真が選ばれるなんて！きっとモデルが良かったんですね（親バカ）。投票してくださったみなさん、ありがとうございます。

3等賞 自慢の我が子の写真で賞を頂き、大変嬉しく思います。また機会があれば参加したいです。

4等賞 とっても嬉しいです。ありがとうございます。これからも楽しい写真を撮りたいと思います。投票してくださった方、ありがとうございます。

5等賞 この度は5等賞を頂きまして、誠にありがとうございます。まさか犬の写真が選ばれるとは思ってもいなかつたので、大変驚きました！初めて賞をとってくれました！！（展覧会では全くだめ犬だったので）

病院玄関ロビーに掲示されている写真に足を止めて見入る方がいらっしゃったり、応募したよ！投票したよ！などの声をかけていただき、職域を超えた話題作りに貢献できたことを嬉しく思います。
この企画をきっかけに家族の大切さや支えを改めて認識していただけたのではないかでしょうか？

9) 学生とのランチミーティング

【学生ランチミーティング概要】

対 象：医学部5年生 （男女共対象）

実施日：毎週水曜日開催

時 間：12:00～12:45

参加人数：年間97名

ランチ：サンドウィッヂとジュースを提供

調 査：ワークライフバランスに関するアンケート調査

医学部5年生（男子、女子とも）を対象に、5月より毎週ランチミーティングを開催。キャリアに関する啓発活動の一環として、ランチの時間を利用してワークライフバランスのほか、ダイバーシティについて語り合っています。短い時間ではありますが、それぞれの医学部学生が、大学生の時期からキャリア設計を考えるいい機会になればと期待しています。またアンケートへの回答は、次世代の医療を担う若者への具体的な育成支援の方針・方策を考えるために参考にしていきたいと思っています。

この機会に、学生さんにセンターの存在を知ってもらい、将来キャリア相談などしたいことがあれば、役立ててもらいたいと思っています。



10) サポーター倶楽部通信

あじさいプロジェクト サポーターメンバーへメールマガジンを送って、センターの近況、ワークライフバランス実現への施策などを紹介しています

Vol.1 の主なコンテンツ(2012.11.30)

- ▼伊東昌子センター長が『西予市おイネ賞事業』懸賞作文で奨励賞受賞
- ▼12月21日（金）18:30～講演会『次世代の医師へ伝えたいこと』長崎大学医学部良順会館にて
- ▼1月29日（火）10:00～復職＆リフレッシュ支援トレーニング開催決定
- ▼子育て支援メニュー利用の締切迫る
- ▼11月19日（月）懇談会『医学生・研修医をサポートするための会』を終えて-ご報告
- ▼医学生がこれからの医療を考えるための情報誌『ドクターラーゼ』に「医師の働き方を考える」対談記事掲載
- ▼マタニティ白衣レンタル

Vol.2 の主なコンテンツ(2013.1.17)

- ▼1月29日（火）10:00～復職＆リフレッシュ支援トレーニング開催間近
- ▼就労等の相談窓口へのアクセスを改善しました
- ▼長崎新聞に「あじさいプロジェクト」の記事が掲載されました
- ▼12月21日（金）講演会『次世代の医師へ伝えたいこと』を終えて-ご報告

Vol.3 の主なコンテンツ(2013.3.1)

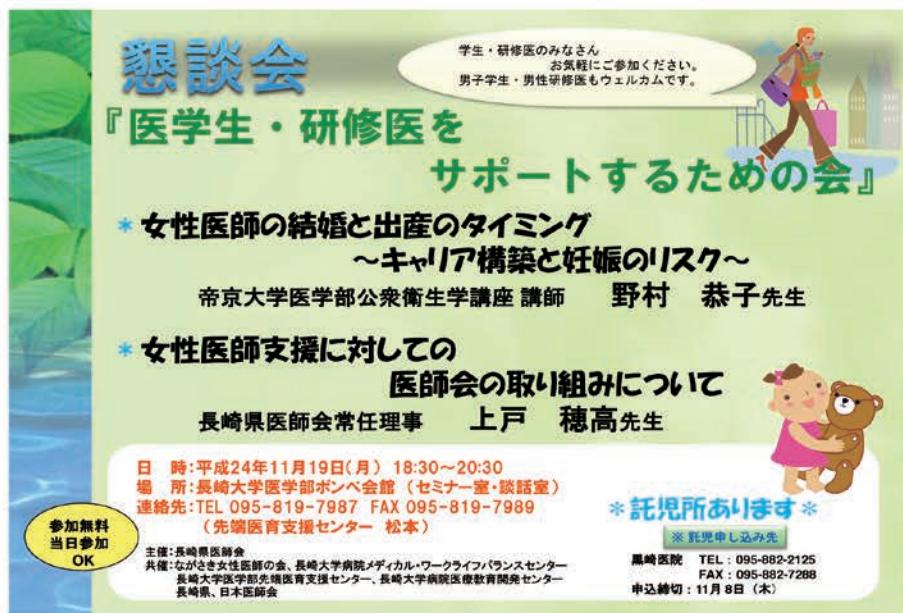
- ▼3月11日（月）10:00～復職＆リフレッシュトレーニング開催間近
- ▼長崎市勤務医対策研修会にて講演を行いました
- ▼ワークライフバランスフェスタ東京2013に参加しました
- ▼平成24年度女性医師シンポジウムに参加しました
- ▼北里大学病院よりセンター見学にいらっしゃいました
- ▼ワーク・ライフ・シンポジウムIN長崎に参加しました

11) 講演会開催

11-1) 「医学生・研修医をサポートするための会」

長崎県医師会主催の「医学生・研修医をサポートするための会」は、日本医師会の補助を得て、講演会・懇談会を開催することができました。

これまでも、ながさき女性医師の会は共催として、学生や若い医師と交流会を行ってきました。今年度からは、メディカル・ワークライフバランスセンターも参加して、次世代の医療を担う学生や研修医と、キャリアについて話をするいい機会となりました。



「育児は育自」です。出産・育児は大変ですが、長い医師としてのキャリアの中で自分を育てる大きな経験です。結婚・出産でキャリアを諦めないでほしいですね。

<アンケートより参加者の感想抜粋>

- ・講演は、非常に興味深いデータをたくさん見られ、具体的な数値でわかりやすかった。
- ・自分のライフプランを考えるきっかけになったり、同じように家族計画について不安を持っている人がいることがわかった。
- ・医師としてのいろんなロールモデルを提示してもらえたから、自分で結婚出産の時期を選びやすいと思った。
- ・立食パーティが交流の機会になりよかったです。
- ・実際の医師の就労状況について知ることができ、雰囲気も良かったです。

懇談会『医学生・研修医をサポートするための会』－ご報告

ながさき女性医師の会副会長 黒崎伸子

今年も、恒例の医学生・研修医との懇談会が、平成 24 年 11 月 19 日(月)18:30 から、長崎大学医学部ポンペ会館で、医学生 36 名、研修医 5 名を含む 60 名以上のみなさんの参加をえて、盛会に終わりました。

【開会にあたって】

この懇談会の総責任者であった松本 恵先生(先端医育支援センター/第一外科)の進行で始まった。最初に、鶴田雅子会長のあいさつでは、2010 年東京で開催されたアメリカの Clinton 国務長官の言葉を引用し、医療の分野に限らず、女性の活躍によって、日本の GDP は 19% 上昇すると…、女性の active な活動で社会全体の上昇が得られる事を強調した。



司会の松本 恵先生



鶴田 雅子会長



垂れ幕の前は瀬戸牧子先生のご協力

【講演 1】「女性医師の結婚と出産のタイミング～キャリア構築と妊娠のリスク～」

講師：帝京大学医学部公衆衛生学講座講師 野村恭子先生

○なぜ、女性医師の活用なのか？

医療費削減のため医学部定員削減政策がとられているが、過去 30 年、日本の医師数は OECD 諸国の中でも低い。さらに、2004 年の新医師臨床研修制度の導入によって、大学医局から地域の病院への医師派遣が中止され、地方病院は医師不足となるものの、病院に患者は集中して、病院医師の長時間労働が常態化するという悪循環を来している。そのような背景から、全体の 18% で、新しく医師免許を取得するうちの 3 割を占める女性医師を活用しなければいけなくなった。アメリカも約 30 年前に似た状況(医師の 11% が女性)で、現在は全体の 40% 近く、医学校入学者の過半数を女性が占めている。

ただ、今の日本では、20 代では 36% の女性医師が、30 代で 27% に減少しており、この女性医師の継続就労を阻んでいるのは、大きく二つの因子に集約される。つまり、①女性の社会的役割への固定観念・周囲の期待(女性、妻、母親、嫁…)と②長時間労働、頻回の当直、保育不足、性と労働衛生などの就労環境である。このふたつの大きなハンディを乗り越えられず、女性医師の半数以上が離職しており、その 90% は卒後 10 年以内に起こっている。これは、日本全体の女性の就労率の M 字型カーブと一致している。そして、いったん、常勤を離職してしまうと、常勤に復職するのは難しく、約 3 割である。

○医科大学合同調査などの背景は…

いくつかの医学部を対象とした調査結果から、みえた特徴は以下のような点である。

- ・女性と男性では選択する診療科が全く異なっていた。(上位5は、女性で内科・皮膚科・小児科・眼科・産婦人科に対し、男性は内科・整形外科・外科・産婦人科・眼科)
- ・就労形態についても、男性の 96%フルタイムに対し、女性はフルタイム 69%、パートタイム 29%で無職が 2%(男性では無職ゼロ)
- ・週当たりの労働時間は、20代では男女差なく、その後の年代では男性のほうがより長く働いているが、30～50代の女性も通常の40時間以上は働いているのである。

○女性医師の結婚と出産のタイミング

- ・結婚・出産いずれかのライフイベントによって、一度でも離職した経験のある女性医師は 52%を占め、多くは卒後4～6 年の間に、結婚・出産を経験している。そして、20 代で結婚はしても、出産はもう少し遅く、専門医資格取得が理想的だと考えている。
- ・アメリカでは女性医師のほとんどが研修医時代に家族計画をしているという調査結果もある。

○医師の労働環境と妊娠・出産合併症との関連

- ・別の視点でみると、女性医師の 55%が鎮痛剤を使用するほどの月経痛に悩まされながら、生理休暇を取得しているのはゼロと言う実態である。(看護職員は 12%)
- ・また、産前産後休暇については、取得はしているものの、産後 8 週未満が 30%近くなど、実際には、労働基準法に抵触している。また、育児休暇の取得も 30%しかない。
- ・このような背景から、妊娠・出産中の異状を調べると、切迫流産や切迫早産・低出生体重児が多かった。妊娠時の週当たりの労働時間は関連があるといえる。
- ・また、妊娠時の職場や家庭の保育支援がないことを理由に離職してしまった女性医師とそうでない女性医師では、結婚・出産年齢、子どもの数には差がないにもかかわらず、認定・専門医の取得や医学博士の取得は、継続して働いた女性医師で高率という結果が出た。

○まとめ

仕事と私生活を両立させ、最大限のポテンシャルを引き出すために必要なのは、以下の 5 点といえる。

- 1) 結婚や出産で辞めさせない取り組み
- 2) 産前産後休暇を十分に取らせる
- 3) 育児休暇を親である医師すべてに取得してもらう。(男性医師も)
- 4) 早急な職場の環境整備
- 5) 男性医師や組織の意識啓発



Q&A

Q:「1. 長時間労働で妊娠・出産のリスクが増加することは、他の職種においてもあると思われるが、医師の場合の特異性はあるか？」（女性医師から）

A:長時間労働でこの合併症のリスクがあがることは他の職種でも同じで、これを減らす努力はぜひ必要である。これから他職種のデータ（報告は少ないが）とのメタ解析をやっていくつもりである、

Q:「“仕事に対するモチベーションが低い”という表現があったが、内在的に女性ではそうだといえるのか？外因的要素によってモチベーションを喪失するのではないか？」（女性医師から）

A:学生時代からの motivation の確立とその後の維持は、やはり、外的要因の大きい女性医師には重要である。また、解剖実習などの実習や経験を通してモチベーションの低下が生じてくる女子学生がいるのも事実で、生物学的にそうなりやすい要素も否定はできない。

Q:「学生時代に結婚・出産という選択肢はないのか？」（男子医学生から）

A:多くの学生にとっては、日々の勉強をこなし、試験をクリアすることだけでも大きな負担で、これと並行して結婚・出産・子育てをすることは難しいと思われる。一選択肢としてはあり得るが、それが better choice ではないと思われる。

⇒このやりとりの後、講師が参加者に「学生時代に結婚して出産してもいいと思う人？」と質問したところ、3名の女子学生が控え目に挙手していた。

【講演2】「女性医師支援に対しての医師会の取り組みについて」

講師：長崎県医師会常任理事 上戸穂高先生

日本医師会が、平成17年以来取り組んできた女性医師支援事業を紹介され、これに応じて、現在、長崎県医師会が行っている施策についても言及された。各都道府県医師会では、女性医師支援のための部会が設置されているが、現時点では長崎県にはないものの、近いうちに「男女共同参画委員会（仮称）」として発足させたいというのが講師のご意見ということであった。

参照：日本医師会ホームページ

<http://www.med.or.jp/doctor/female/>

| 九州各県 | | 名称等 |
|------|-----------|-----|
| 福岡県 | 男女共同参画部会 | |
| 大分県 | 男女共同参画委員会 | |
| 宮崎県 | 女性医師部会 | |
| 鹿児島県 | 女性医師委員会 | |
| 鹿児島県 | 女性医師委員会 | |
| 佐賀県 | なし | |
| 熊本県 | なし | |
| 長崎県 | なし | |

Q&A

Q:「前の講演にも関連するが、女性医師支援策に積極的に取り組まれていることは感謝するが、同時に、男性医師の働き方、とくに勤務医の負担軽減なども同時に取り組まないと女性医師の受け入れは難しいのではないか？」（女性医師より）

A:上戸先生「その視点での配慮もこれからやっていきたいと思う」

野村先生「女性医師だけでなく、男性医師の負担も減らすということを同様に行うのは、なかなか難しい。まずは、女性医師の出産・子育てに男性医師が理解を示すようなことから取り組み、男性医師も育児休暇を取得するというような段階的な取り組みが必要と考えられる。」

Q:「勤務医の負担軽減の一案として、大阪厚生年金病院産婦人科が取り組んだように、近隣の医師会会員が女性医師が多くて不足しがちな当直の役目を担うようなことに取り組んではどうか?」(女性医師より)

A:「一提案として、男女共同参画担当役員で前向きに検討してみたい。」

【懇談会】

講演終了後に隣の談話室に移り、たくさんの食事と飲み物を前に、講師の先生方を取り囲んだり、先輩医師たちへの進路相談や、さまざまな話題にみなさん盛り上がっていました。



今日、参加した女子医学生や研修医たちが、医師や認定・専門医の資格を順当に取得すると同時に、結婚・出産しても離職することなく、働き続けようと確固たる決意をもってもらえたなら、嬉しく思います。そして、いっしょに参加した男子学生・男性医師がよき同志・先輩・ボスとして、ともに医師の就労環境を改善して、出来る限り全ての医師資格取得者が継続して社会貢献できるような体制づくりにご理解いただきたいと思います。もちろん、それは、私たち団体の設立趣旨ですので、今後も積極的に活動を続けていきます。

最後になりましたが、この懇談会は、ながさき女性医師の会が企画しましたが、長崎県医師会の主催として、大変なご支援をいただきました。この場をかりて、蒔本 恭会長をはじめ、県医師会のみなさまには感謝の意を表したいと思います。

野村先生の話はデータに基づいて説得力のある内容でためになりました。

女性医師のキャリア構築と出産育児の両立のシビアな現実を知った。

実際の統計を見て、女性医師の結婚・出産のタイミングやキャリアとライフワークのバランスについてよりよく考えていく必要があると感じました。

将来の不安が少し軽減しました。

非常に興味深いデータをたくさん見られて良かった。

もう少し突っ込んだ率直な意見を聞きたかった。

男性の私でも参考になりました。

結局、女か男かということも大切だが、何科で何を目標に働いているかで女も大きく違うと思う。女性というくくりでサポートするのは無理だと思います。

具体的な数字が出て分かり易かった。だけど数字だけじゃなくて「医師何年目はこういう時期」みたいなモデルがあれば良かった。実際の学生は結婚・出産のタイミングが知りたいというより、医師としての一般的なモデルがわからないんだと思う。いろんなタイプのモデルがあると分かり易い。そうしたらどのタイミングがいいかは自分で選べると思います。

医師になったら、何もかも我慢しなければならないと思っていたが、今の状況に異議を唱える存在があるというだけでも心強かったです。

女性医師が結婚と出産をキャリア構築と両立するのが難しい現状についてはよくわかったが、それを両立しようとする場合に何が大切かということに対して言及がなかったので、その点について聞きたかった。

普段ぼんやりと思っていたこと(キャリアと出産時期)がはっきりした感じでとても良かった。

参加者の
声

あなたのキャリアをサポートします

生き方、働き方のロールモデルや不安を分かち合える仲間がほしい

いつ、子どもをもつたらいいの？

家族に介護が必要となったら…

パパ、ママになったら…

勤務時間を短くして働きたい

子育ても仕事もしたい

そろそろ復職しようかな…

ドクターの仕事と生活
の両立を応援する

あじさいプロジェクト キャリアサポート

出産・育児、介護で
今までどおり働くことが
難しそう…と思ったら

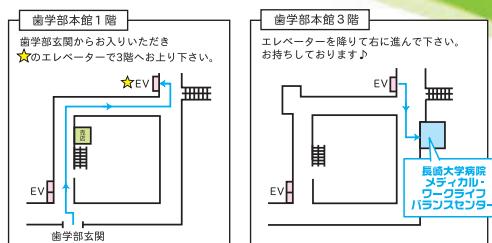
長崎大学病院
メディカル・ワークライフバランスセンター
095-819-7979

仕事と生活のバランスを取りながら働きつづけることをサポートします!!

- ◎今後のキャリアプランを考えましょう
- ◎職場や地域の制度や支援情報を知り、
活用しましょう

《事務局》
長崎大学病院
メディカル・ワークライフバランスセンター
〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7番1号 TEL.095-819-7979

NAGASAKI AJISAI PROJECT
ながさき あじさいプロジェクト



11-2)

平成24年度 長崎大学病院あじさいプロジェクト講演会

メディカル・ワークライフバランスセンターを立ち上げて以来、ずっと長崎大学で講演をお願いしたいと思い続けてきた、お二人の先生の講演会が実現しました。医学部長 松山俊文先生をはじめとして、医学部のご協力なくしては成り立ちませんでした。心から感謝いたします。

申込不要
(参加無料)

平成24年度第1回長崎大学病院あじさいプロジェクト講演会

伝えたいたいこと師へ

講演 I - 「ピアサポートで学び、成長する」

片岡 仁美 (かたおか ひとみ)
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
医療人キャリアセンター MUSCATセンター長
地域医療人材育成講座 教授

岡山市出身。平成9年岡山大学医学部卒業。専門は内科学、糖尿病学、腎臓病学、医学教育。トマスジェフーラン大学、岡山大学病院などを経て、平成22年5月に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。文部科学省社会のコースに推薦された質の高い医療人養成進歩プログラム(平成19~21年度)「女性を生かすキャリア支援計画」では取組担当者として女性医療人の支援に力を尽くし、現在は岡山県の委託事業として医療現場における男女共同参画を目指す「MUSCATプロジェクト」を取り組んでいる。

講演 II - 「キャリア継続の力を育む」

津田 喬子 (つだ たかこ)
公益社団法人日本女医会会長
名古屋市立東部医療センター名誉院長

名古屋市出身。名古屋市立大学医学部卒業。同大学、麻酔学教室に入局。愛知医科大学医学部麻酔学教室、トロント大学医学部麻酔学教室を経て、名古屋市立大学医学部麻酔学教室准教授。2007年9月から名古屋市立東部医療センター東市病院副院長、2008年には病院長就任、現在 名誉院長。1998年 小坂二度見賞受賞、2005年 吉岡弥生賞受賞。2010年より、公益社団法人日本女医会会長。

著書紹介
・あなたらしいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ～(2009/7)
・女性医師からのメッセージ 民系キャリアアップの道しるべ(2006/11)

プログラム

| |
|--|
| 18:00 受付開始 |
| 18:30 開会挨拶 松山 俊文 (長崎大学医学部長) |
| 18:35 講演 I 「ピアサポートで学び、成長する」 講師 片岡 仁美 |
| 座長 伊東 昌子 (長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター長) |
| 19:30 講演 II 「キャリア継続の力を育む」 講師 津田 喬子 |
| 座長 長谷 敦子 (長崎大学病院救急救命センター副部長) |
| 20:20 閉会挨拶 伊東 昌子 (長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター長) |

2012年
12/21 金 18:30~20:30
長崎大学医学部良順会館ボードインホール

託児有 無料 (要予約)
「あじさいプロジェクト長崎」
ホームページのイベント情報より
当講演会のご案内にて、お申し込み下さい。
- 12/14 申込締切 -

■託児お申し込み・お問い合わせ先
長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号 TEL&FAX 095-819-7979  あじさいプロジェクト
■主催:長崎大学医学部、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター ■共催:先端医療支援センター、医療教育開発センター、ながさき女性医師の会、長崎県

<http://nagasaki-ajisai.jp/> 



松山俊文文学部長

長崎大学医学部 松山俊文文学部長による開会の挨拶

大学の活性化のため、人材育成に力を入れている。そのひとつの道として、女性医師の働きやすい環境を整えること、そして学生にはイキイキと活躍する女性医師の姿をロールモデルにして、自分の進路を考える機会にしてもらいたい、とのお話をいただきました。



会場の
みなさん

左から、松本恵先生（司会）、片岡仁美先生（講師）、津田喬子先生（講師）、松山俊文医学部長。、伊東センター長（座長）、長谷敦子先生（座長）



講演1

片岡仁美先生 「ピアサポートで学び、成長する」

岡山大学のマスカットプロジェクトの中心として片岡仁美先生は、岡山大学卒業後、内科学、糖尿病学、腎臓病学、を専門とした内科医として研鑽を積まれて、トマス・ジエファーソン大学やハワイ大学で研修されて、さらには医学教育を再度トマス・ジエファーソン大学で学ばれて、臨床家としても医学教育者としても、ご活躍の先生です。

女性医師就労支援では、全国いろんな施設の先頭に立って、引っ張ってこられています。お若いのに、受賞歴、研究費助成金獲得、論文も多数執筆されて、驚くべき経験をお持ちの先生です。



平成19年度文部科学省社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人GP）に採択された「女性を生かすキャリア支援計画」を前身として、平成22年度より女性医療人の支援と男女共同参画の実現を目指した「MUSCATプロジェクト」がスタートしています。



この2つのプロジェクトを通して、岡山県内の医療や行政機関と連携を図りながら、女性医師に働くことの重要性と楽しさの両面を教えながら、女性医師の就労活動を継続し偉大な業績を築いてこられました。

私達、あじさいプロジェクトもMUSCATプロジェクトに負けないよう、強いネットワークと温かいコミュニティーを築いていきたいと気持ちを新たにしました。



私自身も離職組ですので、復職前の不安等よくわかる部分がたくさんありました。多様性は重要だということは、大きな心の支えです。 (30代～40代 女性医師)

多方面にアンケートをされ、ニーズを把握し、実践されていることに感心しました。
(5人のうちの1人ではなく、6人目としての立場での復帰をする、病児保育等) 自分が同僚や男性医師と比べて短時間で中途半端な仕事しかできないところに引け目を感じていましたが、少しは自分も医局に貢献していると思っていいのかなど、少し勇気づけられました。多様な人間のいる組織でもいいのかもしれない。もちろん周囲への感謝を忘れず、甘えは禁物ですが。 (30代～40代 女性医師)

女性医師の支援に対して、このようにキャリアまで含めて考えていらっしゃる先生方がいることを知って、自分も積極的に女性医師支援の活動に参加し、さらに多くの医師がいきいきと活動できるようにしたいと思いました。 (20代 女子学生)

長崎でのあじさいプロジェクトも名前ばかり知っていて、具体的にはほとんど知らないのですが、その参考となったプロジェクトを知ることができてよかったです。1年生の時は確かにキャリアや具体的にどのような働き方をしたいかについて何も知らないですが、その教育は非常に大事なことだと思いました。ただ、学生によってモチベーションは様々なので、長崎大学のような大勢を対象とする講義では浸透しにくいのかもと思いました。
(20代 女子学生)

医学教育の段階で、キャリア支援について学ぶ機会を作っているのは大変意義深いと感じた (30代～40代 女性医師 地域医療機関)

どんなサポートを望んでいるかがデータとともに標してもらい、わかりやすかった。少しづつではあるが、多様なバックグランドが広く強くなるようになれば良いと思った。
(30代～40代 男性技師 地域医療機関)

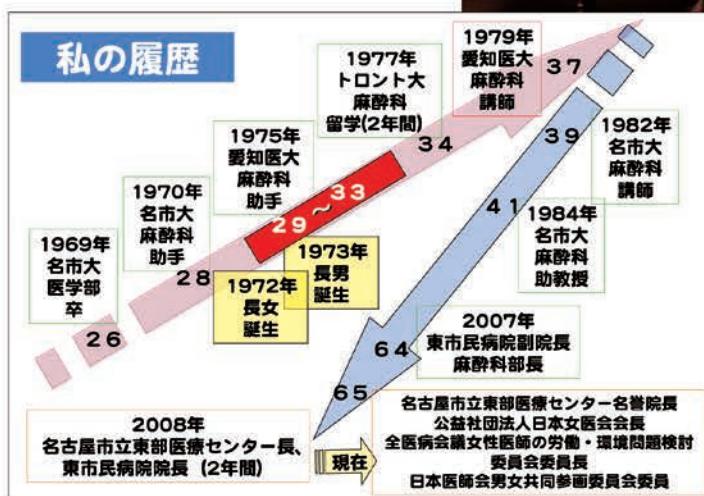
講演2 津田喬子先生 「キャリア継続の力を育む」

津田喬子先生は、2010年から社団法人日本女医会の会長として、ご活躍の先生だけあり、凛とした貫禄にはため息もでました。

お話しは淡々とご自身の経歴・キャリアを述べられる中、女性医師が一握りしかいなかった時代にご苦労もなされたかも知れませんが、苦労をエネルギーに変えて、女性の医師としての道を開拓してこられたことが、若い先生や学生さんにも伝わったことだと思います。



津田先生は麻酔科医であることへの誇り、そして医師であることのすばらしさを、言葉の端々に伝えて下さり、大きな元気をいただきました。





自分の将来に不安を感じていましたが、先生方が今まで築いてくださったシステム等をさらに発達させ、それに甘えることなく自分を磨くことも頑張りたいと思いました。 (20代 女子学生)

女性医師支援の功罪と良い点だけでなく、現在の問題点も知ることができ、視点の変換が大切であると思いました。 (20代 女子学生)

女医が仕事を続けるためには、支援だけでなくキャリア継続をすることが大切だという視点の変換が目からうろこでした。確かにキャリアを続けることができれば、離職することなく続けたいと思うだろうと感じました。先生のように仕事と家庭を両立できるようになりたいですし、ロールモデルになるような先生にこれから働く病院で出会えたらいいなと思いました。 (20代 女子学生)

女性医師のことよりも、今回の講演では、これから先、医師としてどう生きていくかを再確認、啓発される内容でした。 (20代 研修医)

まず自分が『キャリア継続を』と強く思い、実行していくことが最も大切で、今私が始められることだと感じた。非常に刺激を受け、参加してよかったです。 (20代 女性医師)

第一線でずっと努力され活躍されてこられた強さに裏打ちされた講演でした。職場でも家庭でも『思いやり』が大事なのだと改めて感じました。 (30代～40代 女性医師)

ワークライフバランスについて理解が深まりました。先輩女性医師の先生方の努力を無駄にしないよう自分なりにキャリアを継続したいと思いました。 (30代～40代 女性医師 地域医療機関)

新しい視点、ホットな提言がよかったです。 (50代以上 女性医師 地域医療機関)

3. 調査報告

1) 長崎大学病院職員における介護ニーズアンケート

1. 調査の目的

本年4月に開設されたメディカル・ワークライフバランスセンターにおいて、すべての職員が、いずれ直面する可能性のある介護について、職員の実態や認識を把握することにより、活動方針の参考にする

2. 対象と方法

【実施期間】

2012年5月10日～5月31日

【調査対象】

長崎大学病院に勤務する職員2,158名（病院イントラネットのPHS/メール名簿より4月25日抽出）

（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、技術職員、事務職員、その他）

【調査方法】

返信用封筒を同封したアンケート用紙を個々人に配布し、院内便で回収

【質問内容】

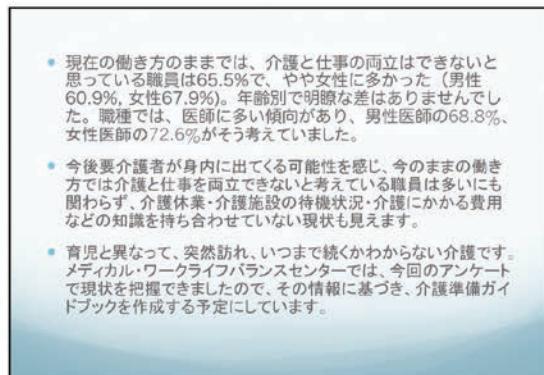
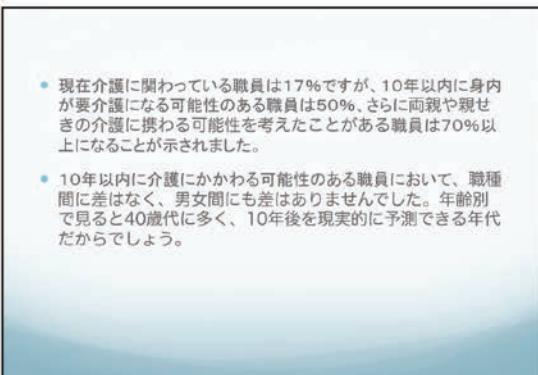
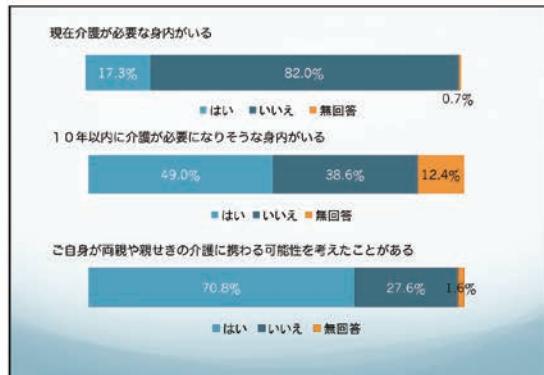
現在の状況（年齢、性別、職種、現在・将来の要介護者の有無）、

介護の認識（休業制度・保険・施設に関する知識、介護と現在の働き方との両立について）に関する質問

【配布・回答数（回答率）】

2,158名に配布し、1,278名（59.2%）の回答

3. 結果と考察



アンケート内容および詳細な結果は、あじさいプロジェクトホームページにて報告しております。

2) 病院管理職におけるワークライフバランス意識調査 アンケート

1. 調査の目的

病院あるいは大学病院診療科の管理職のトップが、ワークライフバランスや両立支援に対する意識について調査する

2. 対象と方法

【実施日】 2012年7月13日

【調査対象】 長崎大学関連病院長、長崎大学医学部教授、長崎大学病院教授

内訳：長崎大学医学部・病院教授 23名

関連病院病院長 36名

200床未満 19

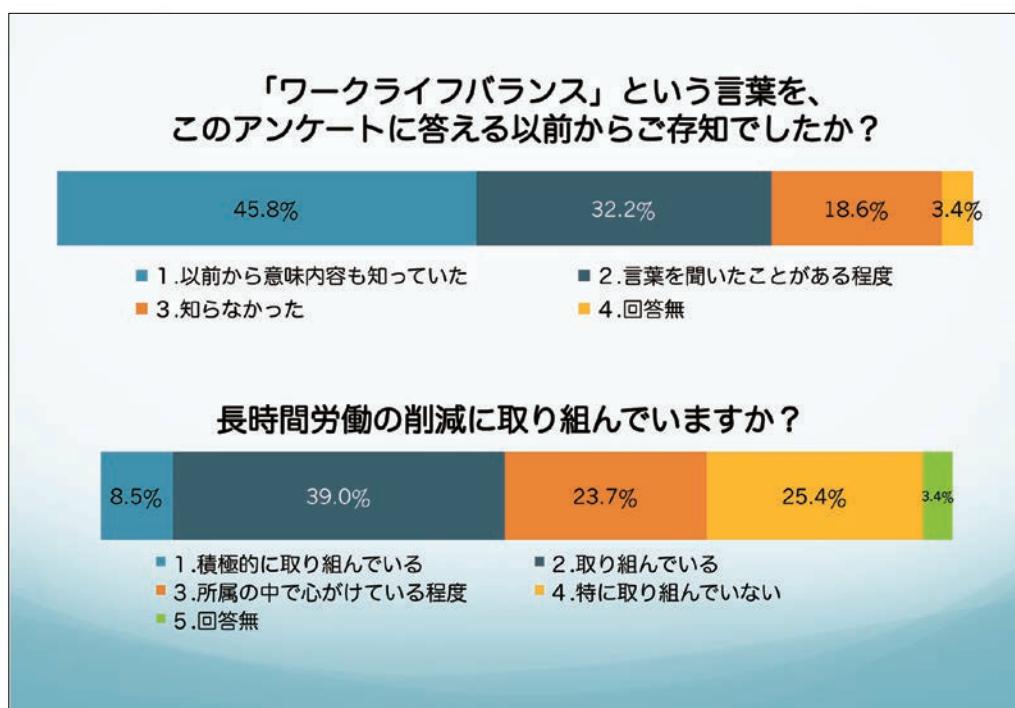
200-500床 16

500床以上 24

【調査方法】 「長崎大学関連病院長会総会 長崎大学医学部との合同会議」開催時に、無記名でアンケート調査を施行した。アンケートはその場で回収した。

【配布・回答数（回答率）】 80名に配布し、59名（74%）の回答

【結果】

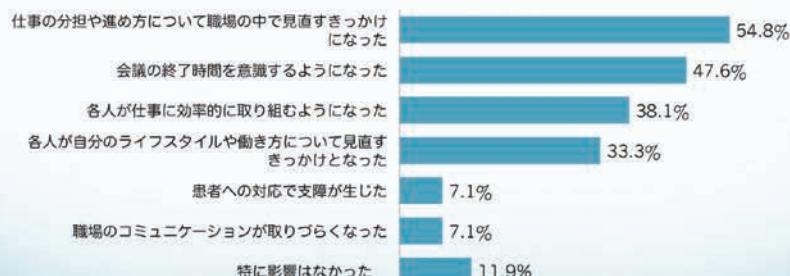


ワークライフバランスについて、内容も理解しているという回答は半数を占めており、長時間労働の削減に取り組んでいるという回答も約半数でした。長時間労働削減によりもたらされた効果については、ポジティブな効果が得られたという回答が多くなっていました。

一方、両立支援については、ポジティブな効果の方が多かったものの、ネガティブな効果の回答も決して少ないのでなかったようです。その回答は、他の人の負担が増加、不公平感、業務における支障が上げられていました。両立支援策の導入においては、業務の効率化により負担の偏りをなくすこと、ならびに「お互いさま」の風土つくりの課題がみえました。

長時間労働削減の取組による影響

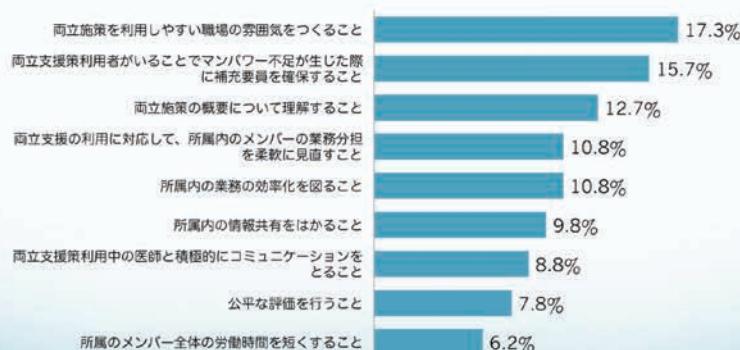
ベース：長時間労働削減に取り組んでいる所属



両立支援策導入により 職場への影響があるとお考えですか？



両立支援策の活用のために、 管理職の方には何を求められるとお考えですか？



3) 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート

1. 調査の目的

医学部生（男子・女子）に対して、ワークライフバランス、キャリアに関する意識調査を行う

2. 対象と方法

【実施日】 2012年5月30日（4年生）、2012年6月26日（1年生）

【調査対象】 医学部4年生（男子67名、女子25名）、1年生（85名、24名）

【調査方法】 「ワークライフバランスとダイバーシティー」講義の前に、無記名でアンケート調査を施行した。アンケートはその場で回収した。

【配布・回答数（回答率）】 4年生：配布102名 回収92名（90.2%）、
1年生109名(100%)

3. 結果と考察

4年生のアンケート調査結果の一部は次ページで紹介。

同じ内容のアンケートを1年生にも施行したので、結果を比較します。

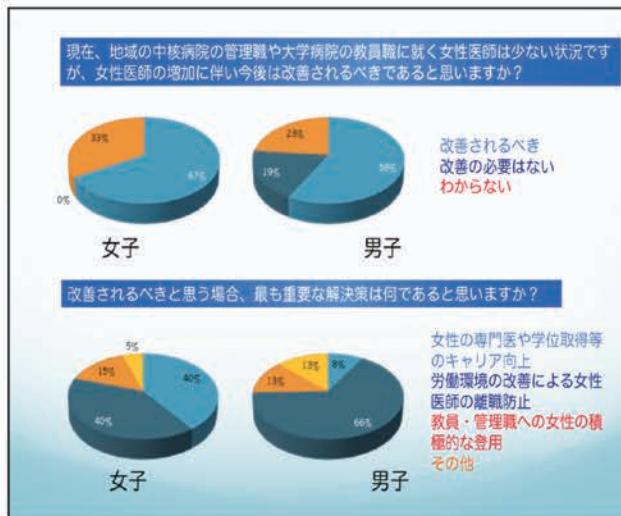
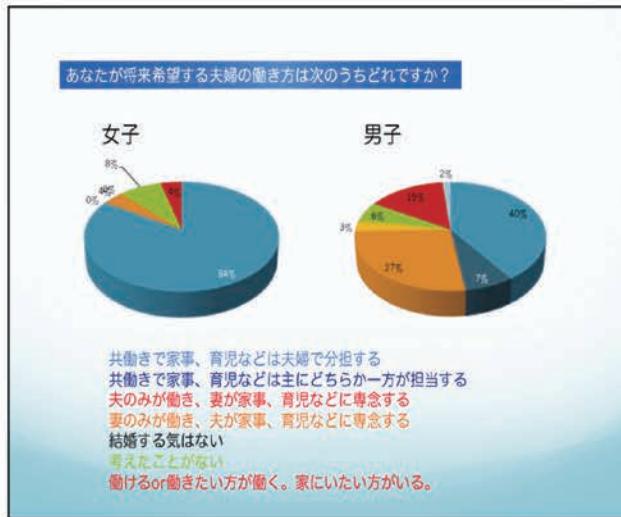
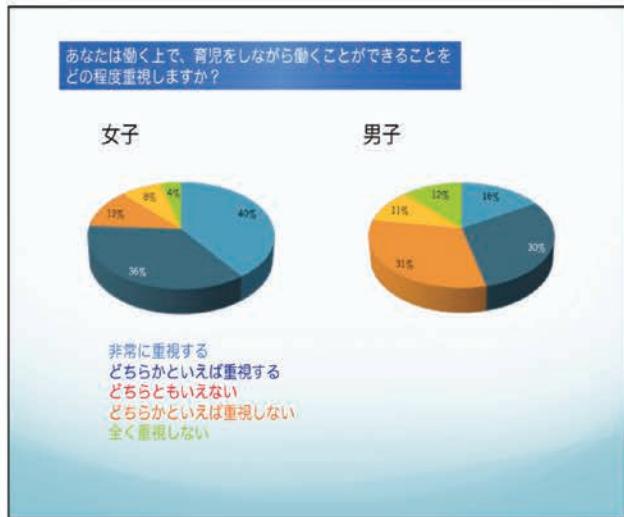
4年生と比較して、よりワークライフバランスの考え方をしているのは、1年生であると考えられました。例えば、育児をしながら働く（女子）、介護をしながら働く（女子）、ボランティアや地域活動の時間をとる（男女とも）ことを4年生よりも重要視しています。共働きで家事・育児を夫婦で分担することを希望しているのは、女子が男子より40-50%高値ですが、女子の中でも1年生の方がより希望するものの割合が高くなっています。育児休業の期間も1年生の方が長期を希望している割合が高かったです。育児休業をとりたいと思う男子も、1年生の方が4年生に比べて高い割合でした(43%, 26%)。

卒後研修後の進路として、多くは臨床医と答えた中で、1年生女子に研究者という回答が21%でした。この夢は持ち続けてもらいたいものです。

大学病院や中核病院では勤務医のワークライフバランスが上手くとりにくくと思っている学生は、1年生女子に多かったです（1年女子52%, 4年女子36%, 1年男子39%, 4年男子34%）。

また、中核病院の管理職や大学病院の教員職に女性の割合の低いことについて、その現状を改善すべきと考えている学生は多く(58~92 %)、特に女子学生、さらに1年生女子学生(92%)に多かったです。解決策として考えているものは、労働環境の改善が圧倒的に割合が高く、4年生女子においては女性の専門医や学位取得等のキャリア向上が40%を占めました。

将来の選択が間近な5年生のアンケート結果は、今後報告する予定です。



4. 学会・講演

1) 「医療現場における ワークライフバランスの重要性について」

平成24年7月13日(金)

15:50～17:50

ホテルニュー長崎

3階「鳳凰閣東の間」

長崎大学関連病院長会総会 長崎大学医学部との合同会議

医学部との合同会議次第

- 1 会長挨拶
- 2 来賓紹介・挨拶
- 3 新任院長、新任教授紹介
- 4 講演及び合同会議

(1) 講演

『医療現場におけるワークライフバランス実現の重要性について』
長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター 教授
伊東 昌子 先生

『長崎市立市民病院のこれから』
地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎市立市民病院長
兼松 隆之 先生

(2) 合同会議



2) 「医師のための「仕事と生活のシナジー」を考えませんか？」

伊東昌子

第24回 放射線医学教室同門会

(2012年12月8日 長崎大学医学部良順会館)

3) 「今だからこそ、医療現場にワークライフバランス・ダイバーシティーが必要とされるわけ」

伊東昌子

第51回日本医師会生涯教育講座

(2012年12月16日 長崎県医師会館)

4) 「骨粗鬆症病態解明と、医療現場におけるワークライフバランス実現を目指して」

伊東昌子

平成24年度医療センター生涯教育セミナー

(2013年1月30日 長崎医療センター)

5) 「医療人として、経営者としてのワークライフバランス」

伊東昌子

長崎市勤務医対策研修会

(2013年2月13日 長崎市医師会館)

6) 「医療現場におけるワークライフバランス実現を目指して 一仕事をしていく上での幸福とはー」

伊東昌子

山口県医師会男女共同参画部会

(2013年3月3日 山口グランドホテル)

5. 広報活動



A red ink stamp on a white background. The text "Choho vol.39" is at the top, followed by the date "2012.4.2". Below the date is the title "「大学はわたしの仕事場2」".

転んでもたたでは起きないで
主婦業期間に英語マスター

仕事から解放される」と。でも半年もするうち、家にいる生活が耐えられず、

「おまかせください」の勇気大を買ってみると、すごく気の付く優しい人。この人なら」と結婚を決めました。仕事が同じと

医師不足解消の種類は
ワークライフバランス

A portrait of a woman with dark hair tied back, wearing a red baseball cap and a light pink long-sleeved shirt. She is smiling and looking towards the camera.

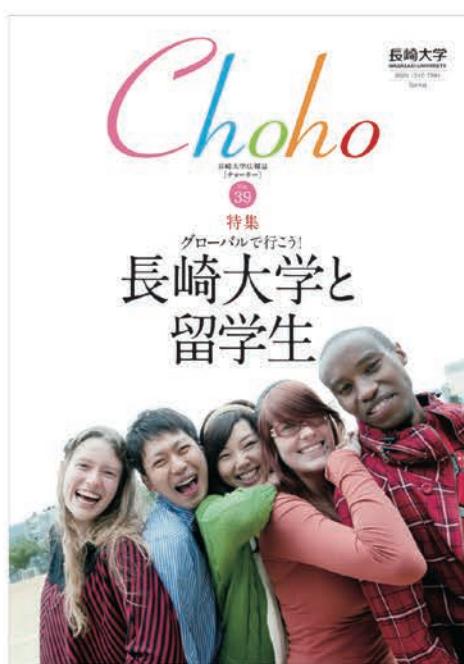
「マサニンレスにも参加するほどの有能なメンバーでもある先生の後を追うように、週末に走り始めた伊東先生。」「川越土産の特許感が何とも言えません。経営者一人の胸にそれを運営感覚と開拓、それを譲り受けで運営していくなかで、」

「いいえ、最近年の男子学生は、私が学生のことを比べるとすいぶん変わってきたな。学部に占める女性割合が増えたことで、性別による性別差が増えてきたと見ていいでしょ。」

「今、医師は人不足でみんな疲れていました。でも女医師が住みたかったの両方を高め合ながる。いいラフサインカルの中で働き続ければそれは状況は改善されるでしょう。そのためなら仕事でもお手伝いすればいい小僧です。ニコニコと笑顔でやさしい小僧です。伊東先生。そのワーライフは、キャリアを重ねることで自然に身についた体力で、基礎的なパートナーの存在をどうか。前を歩く先輩がおとなとしているなど、その道は輝いて見えます。」

働くウーマン奮闘記

長崎大学で働く女性教職員の活躍ぶりを毎回お一人ずつ紹介します。ステキな先輩たちの後ろ姿を見て女子学生も何かを感じて欲しい! そんな願いをこめた新コーナーです!



特集 医療現場のワークライフバランス
放送日：2012年4月13日
制作・著作 NBC長崎放送 山口加奈子記者



報道では、センターが始まった経緯と、女性医師の抱えている問題とそれに対する支援の必要性を強調。看護師があじさい保育園を利用して、イキイキと仕事と育児を両立させている様子が紹介された。



メディカル・ワークライフバランスセンターがスタートしました
大学病院内インターネットで紹介（2012年4月23日）



歯学部C棟3階にスタートした
メディカル・ワークライフバランスセン
ター前で。河野病院長と



スタッフは、伊東センター長（中央）、
事務の三宅スコラスタン由香（右）
と中島由美子（左）

2012年6月



ワークライフバランスセンター開設

仕事と生活の両立支援する職場づくり

長崎大学病院は今春、仕事と生活の両立を支援するワークライフバランスセンターを開設しました。センター教授に就任した伊東先生、県医療政策課に勤務している長谷川先生、院内で働きやすい職場づくりなどに尽力している濱田先生を交えて、女性医師の職場復帰などについて話を聞きました。

3割を占める女性医師

河野氏 4月から仕事と生活をいかに調和させて、働くかということを目的として、ライフバランスセンターを長崎大学病院に立ち上げました。仕事だけでなく、家庭での生活や趣味なども考えてその調和を取りながら生きることを推進していくというものです。これは働く人にとって非常に重要な問題ですが、私たちの世代はこの調和が仕事に偏った生き方をしてきました。子どもたちは私の背中を見て育つという考え方で、子育ては家内に任せできました。今になってようやく私も孫を子育てしているような気分になっています。

私が医学部を卒業した昭和49年、当時の女性の医学生は100名のうちの1割、約10名程度でした。最近では女性も増え始めています。まず大学病院で働く女性の医師の数は何人でしょうか？

伊東氏 今年の4月の調査で、常勤は37名で、非常勤は120名です。

河野氏 200名弱が女性なんですね。男性医師も含めた大学病院の全体の数はどうですか？

伊東氏 常勤が232名と非常勤が351名ですので、600名弱です。女性の占める割合は約3分の1になります。

河野氏 長崎県全体ではどうですか？

長谷川氏 平成22年の国の調査の結果では、長崎県の医師の数は4062人。そのうち女性医師が621名で、約15%になります。

河野氏 今回、女性だけでなく、仕事と生活の調和をどう取るのかということで立ち上げたわけですが、横文字の名前でなかなか分かりにくいと思います。ワークライフバランスセンターの目的や概要をお願いします。

伊東氏 ワークライフバランスとは仕事と生活の均

ワークライフバランスセンター 伊東 昌子氏



いとうまさこ

1955年生まれ。

長崎大学医学部卒。

専門は放射線医学、骨粗鬆症。長崎大学病院放射線部副部長として

2012年3月まで勤務。

同年4月から現職

Ito Masako

衡がどれくらいという話ではなく、仕事を充実させることで生活が充実し、逆に生活が充実するといい影響で仕事も進むという考え方です。過重労働の医師の職場の中で、そういう考え方方が浸透していくことで職場の環境を改善していくことを目的としています。

河野氏 日本経済新聞にプロクター・アンド・ギャンブル社(P&G社)の記事が載っていました。決して仕事と生活の調和は甘やかすためのものではない、と。より効率よく仕事をしてもらうために、どうすれば個人の能力を最大限に発揮できるかを企業として考えるという話でした。読みながら、なるほ

長崎県医師会報 2012年6月号

座談会

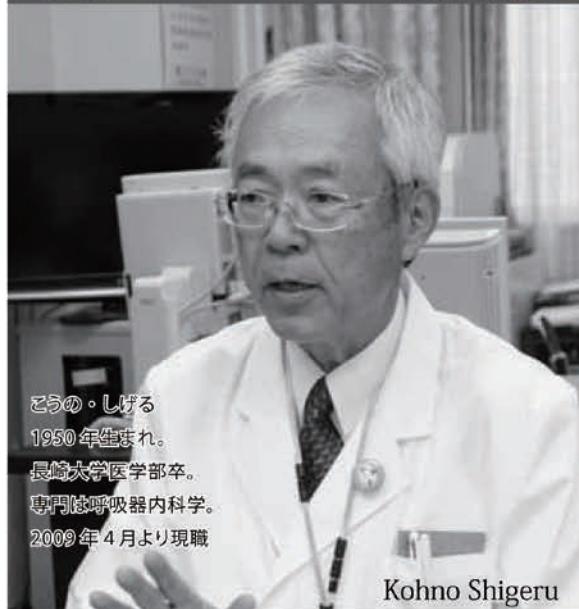
どと思いました。

今の若い先生の生き方をたくさん見ている濱田先生。私はどちらかというと猛烈な生き方をしてきた世代ですが、僕から見ると、ちょっと甘やかせ過ぎじゃないのという印象はあります（笑）。若い人たちの生き方はどうですか？

浜田氏 病院長の世代、いわゆる団塊の世代は戦後の経済成長のあらゆる分野を支えてきました。人数も多く激しい競争の中を勝ち残って来た世代と比べると、今の世代は弱いという感じはします。しかし

病院長

河野 茂氏



こうの・しげる
1950年生まれ。
長崎大学医学部卒。
専門は呼吸器内科学。
2009年4月より現職

Kohno Shigeru

言い方を変えますと、生き方自体への考え方方が変わってきているように思います。人生を長いスパンで考えて、エネルギーを均等に割り当てて働くという考え方が主流のような気がします。特に経済状況が悪いので、働くことに関してはできるだけ長く働けるようにと、むしろ大事に考えていると思います。

「あじさいプロジェクト」を展開

河野氏 僕たちの世代は育児をする男性「イクメン」とか男性が家事をする「カジダン」なんて考えられませんでした。

浜田氏 この間、大学病院でも育児休暇を取った男性が3人いました。僕も皿洗いだけはいつもやっています（笑）。男ばかりの兄弟でしたので、洗濯物

をたたむことなどは子どものときからやってましたね。よくそういう話題を若い世代とするのですが、意外と皆さん自分のことは自分でやっているみたいですよ。もし男性が働きなくなるリスクを下げる意味でも、家事を手伝うことへのハードルは低いようです。

河野氏 そういう意味では、僕はいい時代を生きてきたようですね（笑）。県全体をみてみると、特に離島や僻地は医師が少なく、地域医療の問題を抱えています。医師不足を解消するという面からも女性医師が現場に復帰することは大切になってきます。県では一度仕事から離れた女性医師を現場に戻そうと支援するプロジェクトもあるようですが。

長谷川氏 平成21年度から女性医師の職研修支援事業に取り組んできました。相談窓口を設置したり、長崎女性医師の会や県医師会と連携しながら啓発活動、講演会を実施したりしてきました。平成22年度から関連機関からなる協議会を立ち上げ、県内でどのような対策が必要なのかを検討してきました。女性医師支援の取り組みは県のほかに、日本医師会の女性医師バンク事業などがあり、今回も地域医療再生基金で女性医師のサポート事業が計画されています。

河野氏 具体的に大学病院との協力関係はどのようにになっていますか？

長谷川氏 協議会の中で「あじさいプロジェクト」を進めていて、大学病院のワークライフバランスセンターを中心に事業を進めていくとするものです。

河野氏 では大学病院として「あじさいプロジェクト」を具体的にどう進めていますか？

伊東氏 「あじさいプロジェクト」の拠点病院として長崎大学病院が位置づけられています。その役割は復職のキャリアサポートやトレーニング、コンサルティング、講演会などのイベントがあり、医師向けのほかに次世代を考えて学生向けにワークライフバランスとは何かをカリキュラムの中に盛り込んで教えるようにしています。将来、出産してもキャリアを継続していくもらうよう教育していくものです。

座談会

長崎県医師会報 2012年6月号

河野氏 確か大学病院でも麻酔科が女性医師の復職を支援するプロジェクトがありましたよね。

伊東氏 復職しやすいようにフルで勤務しなくても、関連病院も含めて手術のある時間帯のみ仕事するというものです。また、子どもが大きくなつてから職場に復帰できます。産科婦人科も同じように育児に忙しいときは短時間の勤務で、出先で出産しても、そのポストで産休と育休を取ることができたと思います。

くるみんマーク取得でアピール

河野氏 長崎大学には男女共同参画センター「おもやいセンター」があり、女性の職場復帰を支える体制を整えています。

伊東氏 男女共同参画センターは大学で働く理科系の研究者の支援から始まりました。ターゲットは女性の研究者ですが、だんだん広がって今では男性の研究者や大学に勤務している職員の奥さんにも広がっています。

河野氏 その男女共同参画センターと大学病院のワークライフバランスセンターとの関係はどうなりますか？

伊東氏 私は男女共同参画センターの両立支援のメンバーの1人として3年間活動してきました。しかし、両立支援が必要な方は大学病院に結構いますが、支援が進んでないのが実情でした。

河野氏 大学病院は女性の看護師さんが多い職場です。看護部では妊娠したら産休を取って、育休を取ることが普通になってきました。一方で医師の場合、看護師さんほど定着していないようですね。そういう意味では大学病院にワークライフバランスセンター開設の意味はありますね。

伊東氏 今後、長崎大学では企業として次世代を育てることを意識していることを表すための「くるみんマーク」の取得を考えています。例えば、マークを取得した製菓会社は製品にそのマークを張って、育児支援に取り組んでいる企業という姿勢を示しています。「くるみんマーク」を取得している企業などは全国で1000カ所を超えてますが、長崎ではまだ1企業だけで、全国でも最低です。長崎大学病

院が取得して、この動きが県内の医療機関や企業に広がっていったらいいと思います。

介護も視野に支援体制整える

河野氏 今、高齢社会を迎え、性別にかかわらず親の介護の問題が出てくると思います。介護問題をどう位置づけるかが職員全体として大切になってきますが、「あじさいプロジェクト」の中にこうした場

医師教育開発センター

濱田 久之氏



浜田・ひさゆき

六分医科大卒、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了。内科医。厚生労働技官としてトロント大学で家庭医学と医学教育を学ぶ。“若人の集う長崎大学病院”的ために働く。

2011年2月より現職

Hamada Hisayuki

合も入っていますか？

長谷川氏 「あじさいプロジェクト」は女性医師を切り口に事業の内容を組み立てていますが、ライフイベントでキャリアの継続が困難になりそうな医師たちに活躍して医療の現場で働いてもらうのを目的としていますので、男性医師も支援したいと考えています。

河野氏 濱田先生、若い先生たちにはあまり介護の問題は関係ないでしょう？

浜田氏 長崎大学の学生で県内出身者は3割しかいません。つまり7割が県外出身者です。これは研修先に長崎大学病院を選ばない理由の一つに挙げられます。最近は少子化していますし、地元の親のこと気が気になって出身地に帰る傾向があるようです。研修医に限らず、中堅になったときにも同じような状況はあるのですが。

長崎県医師会報 2012年6月号

長崎大学病院 続ける力

長崎県医療政策課

長谷川 麻衣子氏



1973年生まれ。
琉球大学医学部卒。
内科勤務後、長崎大学熱帯医学
研究所で博士号取得後
2007年より行政医師となる。保
健所勤務を経て、
2011年4月より現職

河野氏 県全体では県内で働く医師の数を増やすという視点からもっと具体的にどのように進めていくとしていますか？

長谷川氏 将来的に県内の各地域に拠点病院をつくり、主にその地域で復職を希望する方に研修などしてフォローする体制を整えていきたいと思います。1つでも多くの医療機関でワークライフバランスが実現できるような就労環境を整備してもらい、Uターンで長崎に戻ってくる医師たちを受け入れてもらえることにもつながると思います。

河野氏 長崎県の医療機関が連携して、開業の先生方のご子弟が長崎県に帰ってくるように取り組んでいますが、今後どうアピールしていくかと考えていますか？

浜田氏 長崎大学病院は昨年、ホスピレートを取得して働きやすい病院の指標を取りました。女性医師が働きやすい実績、時短労働制の導入など医師会の先生方と協力してつくっていき、「働きやすい長崎県」にできたらと思います。

河野氏 今後、どんな指標でセンターの結果をアピールしようと思っていますか？

伊東氏 まずは産休や育休を取られた女性医師が復帰した人数を増やすことを目標にしていきたいと思います。実は4月に発足したばかりですので、現状

のデータがありません。まずは現状を把握するために職員の方に介護へのニーズや意識などについてアンケートをしています。また、各医局を実際に訪問して問題点をピックアップするようにしています。

“日本的”な医療システムも壁に

河野氏 女性は置かれている家庭の環境や希望などによって多様性があると思います。その多様性にいかに応じられるシステムをつくるかが大事だと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか？

長谷川氏 医療の中にはまだまだ主治医制の文化があると思います。多様な生き方をする中で、そのやり方が主流では家庭との両立は難しいと思います。医療の現場で複数の主治医によるチーム医療の態勢を整えることも重要ではないでしょうか。

河野氏 外科系はもともとチーム医療ですが、内科系は主治医制ですからね。医療は医師だけでなく、患者さんからもなりたっているので、患者さんの希望も大切ですし、医師一人ひとりの技量の問題もありますね。伊東先生はいかがでしょうか？

伊東氏 子育てをしていると、子どもが突然病気になることもあります。早く帰らなければならないときがあります。子育てや介護など家庭の事情で誰でもそういう立場になることもありますので、職場でお互いさまだと理解し合う風土づくりが必要ではないでしょうか。もちろん、普段から自分が精いっぱい働いている姿を示すことが前提ですが。

浜田氏 カナダでは約半数が女性医師で、特に家庭医は7割を占めます。カナダでの患者さんを対象にしたアンケート調査で、どういう医師が必要かという質問に対して、「バランスの取れた医師」「健康である」という答えが最も多かったんですね。患者さん側からみれば、担当の医師が健康でライフタイムを持っていると、長く診てもらえる安心感につながっていると思います。そのあたりが日本の医療の現状では難しいところがあると思います。

河野氏 スタートしたばかりのワークライフバランスセンターです。県医師会の先生方にも知っていただいたいと思っています。本日はありがとうございました。



教授就任のご挨拶

長崎大学病院
メディカル・ワークライフバランスセンター 教授
昭和55年卒 伊東 昌子

私は昭和49年に長崎大学医学部に入学し、その後放射線科に入局しました。長崎大学病院以外の医療機関で勤務したのは数年ですので、考えてみると35年くらいを長崎大学で過ごしています。今年の3月まで在籍していました病院放射線部の副部長を7年間務めました。私の医師としての人生において、ただでさえ大変な子育ての時期に「挫折」を経験すると、医師としての仕事を継続していくのは困難だと思うこともあります。折れそうな心を支えてくれたのは、家族と研究だったと思います。大学院にもいかず留学の経験もない私でしたが、疑問が研究を推し進め、研究が新たな疑問を生み、骨の研究の面白さに惹かれて継続してきました。研究も競っているうちに、後戻りのできない階段を登っているような不安や孤独を感じることもありましたが、そこは家族や友人の励まで乗り越えられたのだと思っています。

本年4月に長崎大学病院内にスタートしたメディカル・ワークライフバランスセンターに異動しました。本センターは短い時間で働く（長時間働かない）「働きやすい」そして、しっかりと働いたことを評価される「働きがいのある」病院作りを目指しています。センターが推し進める「あじさいプロジェクト」(<http://nagasaki-ajisai.jp/>)は、長崎県内のすべての医療機関に勤務する医師を対象に、キャリアコンサルティングや就労支援など行っています。この私の

新しい仕事は、これまでのキャリアとは全く異質の仕事です。

6月1日にメディカル・ワークライフバランスセンター 教授職に就任いたしました。少し前までは、研究などのキャリアをひたすら追求したい気持ちが強く、責任ある教授職は無理だというものが、私の本音でした。センターが設立される計画が始まってからは、徐々に考えが変わってきて、長い間お世話になった長崎大学病院で働く職員に何かしらのお返しがしたいという思いがあり、それを遂行するためには教授になる必要があるということ、また希望を持って働く女性医師達のために、伊東でもできることを示しながら、一つの道を作りたいと考え、教授職をありがとうございました。

新しい分野を開くには苦難を伴いますが、「笑きあげる楽しみ」と自分を鼓舞しながら、焦らず、一歩ずつ、ひたむきに歩いていきたいと思います。放射線部副部長として学んだ「忍耐強さ」と骨粗鬆症研究で学んだ「mission, vision, passion」は、新たな領域の開拓に役立つことと思っています。

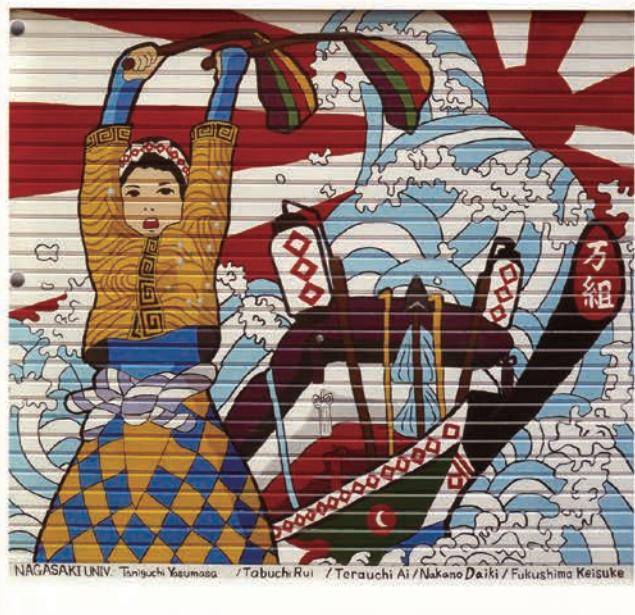
キャリア継続においてサポートが必要になった先生、どうぞセンターにお立ち寄り下さい。長崎大学医学部同窓会のみなさま、どうぞメディカル・ワークライフバランスセンターならびに伊東昌子を今後ともご支援頂けますようお願い申しあげます。

NAGASAKI
UNIVERSITY
SCHOOL
of
MEDICINE
Vol.127
2012年7月度定期

朋百

長崎医学同窓会

Pompe



女医の育児サポート

運賃補助最大2万円

出産や育児、介護によって離職した女性医師の復職支援などをうため、4月に長崎大学病院内に設置されたメディカル・ワークライフバランスセンター（伊東昌子センター長）の仕事と家庭の両立を目指す支援メニューの一つに、子育てタクシーが選ばれた。申請すれば最大で年間2万円の運賃補助が受けられる。長崎県内で子育てタクシーを運行している会社は7社あり、同センターでは「この機会に子育てタクシーの存在を知つてもらって、活用してもらいたい」と話す。

子供だけの送迎などに安心して利用できる子育てタクシ

西日本

長崎・子育てタクシー

クシーがメニューに入つたのは、同センターが事業の第一弾として取り組む「あじさいプロジェクト」。同プロジェクトでは、長

能で、その場合、年間2万円の運賃補助が受けられる。利用するには事前申請が必要で、対象者は長崎県内在住で「あじさいAGORA」に登録するなどの条件を満たしている人。子育てタクシーを利用で

西日本通信局

福岡市博多区博多駅東2-8-35ジャステイス駅東1002
電話092(482)8048
FAX 092(482)8049

中国・四国・九州運輸局、沖縄総合事務局各管内の情報を総合的に報道しています

崎県内在住の女性医師が仕事と家庭を両立できるよう、①子育てタクシー運賃②家事代行、シッターフィーバランス関係の研修会や学会への参加費、旅費――の3つのメニューのうち、申請があつた2つまでを補助する。

補助金の上限額は、それぞれ年間1万円。子育てタクシー社長は、「復職しようとする女性医師の応援をタクシードドドー」と語る。



湯江タクシーの通園サービス

2012.5.21

2012年(平成24年)5月21日(月曜日)
毎週月曜日発行
(第2523号)

東京交通新聞

(7)

2012.10.14

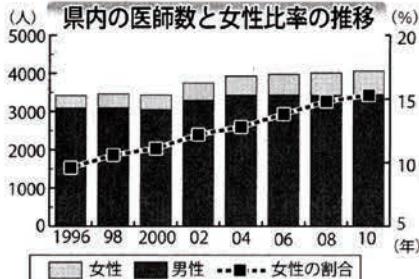
■「おイネ賞」に伊東医師
全国の女性医師と女子医学生を対象に愛媛県西予市が募集した「おイネ賞」の懸賞作文で、大学病院の伊東昌子医師(56)が最優秀賞にあたる奨励賞に長崎を選ばれた。医学研究費として50万円が贈られる。

市によると、伊東医師は同病院で、医師の業務や生活面をサポートするメディカルワーカークラブボートするメディカルワーカークラブによる放電線科医師。応募作文は「いち女性医師としての、私の勤めと次世代への期待」と題し、仕事と家庭の両立など、自らの経験を基に女性医師の働きやすい環境づくりについて書かれているという。

おイネ賞は、西予市で医学を学んだ日本初の産科医とされる楠本イネにちなみ市が今年度に創設。65人から応募があり、精神科医の香山リカさんを審査委員長に三好康司西予市医師会長らが審査した。表彰式は28日、西予市である。



DOCTOR-ASE Vol.03 2012.12.10



「あじさいプロジェクト」スタート

新たに医師になる人の4割近くが女性という時代。過重労働に陥りがちな医療現場でも、結婚、出産、育児などのライフイベントに応じた多様な働き方が求められている。県は、女性医師の離職防止、復職支援を図る「あじさいプロジェクト」を本年度からスタートさせた。

産休や育児休暇が取りにくい

県と長崎大学病院が連携

女性医師の復職を支援

厚生労働省の2010年の調査によると、医師は全国に約29万5千人おり、そのうち女性は18・9%の約5万6千人。県内でも医師4062人の中、15・3%の621人が女性で、1996年の327人からほぼ倍増した。20年後には医師の4人に1人が女性になるのではないかともみられている。

しかし、医師不足などを背景に産休や育児休暇を取りにくいいなど、職場環境が整備されていないために妊娠、出産を機に辞めてしまうケースもある。女性医師が増えたことは、医療崩壊を招く原因

職場環境改善で離職防止へ

（小出久）

同プロジェクトでは相談業務のほか、現場を離れた女性医師に対する復職研修、女性医師の支援に取り組む医療機関の登録・公表、医師や医学専門家に対する啓発などを実施。医師同士で情報交換できるよう会員制交流サイト「ミクシィ」に専用の「あじさいAGORA」を開設したりしている。復職研修はこれまで2回開かれ、計10人が参加したという。

今後は県央、県北地域にも拠点病院を設置し、支援体制を強化する考え。県医療人材対策室は「プロジェクトでは女性医師を切り口にしているが、親の介護などを考えれば男性医師も対象になる。医師が継続して働ける環境を整えていきたい」としている。

問い合わせは長崎大学病院

メディカル・ワーカーライフ

ラントセンター（電095-819-7979）。

にもなるという。

県は09年度から女性医師の復職研修支援に取り組み、10

年度には県医師会、長崎大学病院、ながさき女性医師の会などと「県女性医師等就労支援協議会」を組織。今年4月に長崎大学病院に開設された「メディカル・ワーカーライフバランスセンター」に委託して「あじさいプロジェクト」を始めた。

同プロジェクトでは相談業

務のほか、現場を離れた女性医師に対する復職研修、女性医師の支援に取り組む医療機関の登録・公表、医師や医学専門家に対する啓発などを実施。医師同士で情報交換できるよう会員制交流サイト「ミクシィ」に専用の「あじさいAGORA」を開設したりしている。復職研修はこれまで2回開かれ、計10人が参加したという。

今後は県央、県北地域にも拠点病院を設置し、支援体制を強化する考え。県医療人材対策室は「プロジェクトでは女性医師を切り口にしているが、親の介護などを考えれば男性医師も対象になる。医師が継続して働ける環境を整えていきたい」としている。

問い合わせは長崎大学病院

メディカル・ワーカーライフ

ラントセンター（電095-819-7979）。

「西予市おイネ賞」に選ばれた



長崎大学病院
伊東 昌子教授

育児と両立諦めないで

伊東教授の作文のタイトルは「いち女性医師としての、私の勤めと次世代への期待」。2人の子どもを育てながら放課後の研究者としてキャリアを積んだ経験から、「出産・育児の体験は私たちに人をいとおしむ気持ちと忍耐強さを教えてくれる。仕事と育児の両立の工夫はタイムマネジメントそのもの。医師として社

会人としてさまざまな局面でた楠本イネが医学を学んだ場所。同事業は楠本イネの功績をたたえ、特色あるまちづくりに生かすと創設。女性医師や女子医学生の研究活動を奨励しようとの作文を募集し、全国から65点寄せられた。日本初の女性産科医となつた楠本イネが医学を学んだ場所。同事業は楠本イネの功績をたたえ、特色あるまちづくりに生かすと創設。女性医師や女子医学生の研究活動を奨励しようとの作文を募集し、全国から65点寄せられた。

長崎新聞
2012.12.3

役立つ」と指摘。

「育児や介護で時間制約が生じたときに短く働くことも必要になるし、自分の周りにそのような医師がいたら、その人の働き方を認めて必要があることを誰もが気付かなければならぬ時代」と訴え、

ワークライフバランスの風

土づくりへの意欲をつづつた。

伊東教授は「長崎ゆかりの「おイネさん」にちなんだ賞を頂いて光榮」と感想。あじさいプロジェクトでは復職に向けた短時間勤務制度の利用などを5段階のキャリアプランコースを設定しており、「大切

なのは諦めないこと。継続してやつていれば道は開ける」と悩める女性医師たちにエールを送っている。

（小出久）

伊東教授は「長崎ゆかりの「おイネさん」にちなんだ賞を頂いて光榮」と感想。あじさいプロジェクトでは復職に向けた短時間勤務制度の利用などを5段階のキャリアプランコースを設定しており、「大切

なのは諦めないこと。継続してやつていれば道は開ける」と悩める女性医師たちにエールを送っている。

6. 委員会・ワーキンググループ活動

1)センター運営委員会

日時：2012年7月3日（火）16:30～

場所：放射線部カンファランス室

出席者：10名

議題：

- 1.センター運営委員会の目的について
- 2.センター年間計画について
- 3.ワーキンググループについて
- 4.評価の実施について
- 5.センター顧問の配置について
- 6.その他



長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター運営委員名簿（H24-25年度）

| | 所 属 | 役 職 | 氏 名 |
|----|----------------------|-------|-------|
| 1 | メディカル・ワークライフバランスセンター | センター長 | 伊東 昌子 |
| 2 | 医療教育開発センター | センター長 | 濱田 久之 |
| 3 | 小児科 | 助教 | 本村 秀樹 |
| 4 | 第二外科 | 講師 | 藤田 文彦 |
| 5 | 総合歯科 冠補綴治療室 | 講師 | 田上 直美 |
| 6 | 臨床研究センター | センター長 | 福島 千鶴 |
| 7 | 薬剤部 | 部長 | 佐々木 均 |
| 8 | 看護部 | 部長 | 江藤 栄子 |
| 9 | 病院企画課 | 課長 | 調 卓二 |
| 10 | 総務課 | 課長 | 大西 文昭 |
| 11 | 管理課 | 課長 | 山田 弘幸 |
| 記録 | 総務課 | 主査 | 山田 一岳 |

平成24年度 第1回 メディカル・ワークライフバランスセンター運営委員会 議事要旨

日時：平成24年7月3日（火）16：30～17：30

場所：放射線部 カンファランス室

出席9名：伊東昌子（委員長 センター長）、福島千鶴（臨床研究センター長）、濱田久之（医療教育開発センター長）、本村秀樹（小児科）、藤田文彦（第二外科）、田上直美（総合歯科 冠補綴治療室）、調卓二（病院企画課長）大西文昭（総務課長）、山田弘幸（管理課長）

記録1名：山田一岳（総務主査）

欠席2名：佐々木 均（薬剤部長）、江藤 栄子（看護部長）

議 事

1. センター運営委員会の目的について

（1）委員長より、配布資料1に基づき、メディカル・ワークライフバランスセンターの目的、業務内容等の説明があった。

（2）委員長より、運営委員会内規第5条第3項に基づく副委員長に、福島臨床研究センター長が指名された。

2. センタ一年間計画について

委員長より、配布資料2に基づき、大学病院・長崎県・学部学生対象別に分けた年間月別の活動計画について説明があった。これに対し、下記意見が述べられた。

- ・センター内規第4条にある業務(1)-(4)に応じて、具体的な計画と目標を示すべきである。
- ・医科系診療科の医局長訪問（5月施行）でくみ上げた課題のうち、病院レベルで検討が必要な課題については、病院運営会議に付議したほうがよい。

3. ワーキンググループについて

委員長より、配布資料3に基づき、下記ワーキンググループ（以下WGという。）について提案があり、異議なく了承された。

また、委員長より、今後WGメンバーを選考していくこととなるため、選考等への協力が依頼された。

- ① 復職トレーニングメニューWG
- ② 時間制約のある職員のための就労形態検討WG
- ③ 保育園拡大検討WG
- ④ 女性の検診 DAY 検討WG

なお、WGが形骸化しないよう、多く立ち上げないほうがよいとの意見があった。

4. 評価の実施について

5. センター顧問の配置について

委員長より、配布資料4に基づき、顧問を清野佳紀氏（大阪厚生年金病院 名誉院長）及び福崎博孝氏（弁護士）の2名に依頼したい旨の提案があり、異議なく承認された。なお、顧問設置については配布資料5のとおり内規が変更された後、依頼予定との報告がされた。

また、同じく評価委員を長崎県医師会長、長崎県男女共同参画室長、長崎市男女共同参画推進センター長、長崎大学学長及び長崎大学男女共同参画推進センター長の5名に依頼したい旨の提案があり、長崎大学の役職員が評価委員となるのかとの疑義があったが、長崎大学病院の役職員ではないとのことで了承された。

続けて、年内に（暫定）事業報告書を作成し、評価委員・センター運営委員に提出し、その後、翌年2月末頃、事業報告会を開催し、事業内容の評価を受け、年度内に事業報告書作成予定と報告することとした旨の提案があり、異議なく了承された。

平成24年度 メディカル・ワークライフバランスセンター運営委員会 メール審議議事要旨

日時：平成24年8月8日（水）

メール審議者11名：伊東昌子（委員長 センター長）、福島千鶴（臨床研究センター長）、濱田久之（医療教育開発センター長）、本村秀樹（小児科）、藤田文彦（第二外科）、田上直美（総合歯科 冠補綴治療室）、佐々木 均（薬剤部長）、江藤 栄子（看護部長）、調卓二（病院企画課長）、大西文昭（総務課長）、山田弘幸（管理課長）

伊東委員長より、平成24年7月3日（火）に開催された平成24年度第1回メディカル・ワークライフバランスセンター（以下「センター」という。）運営委員会において、センターの運営に対し意見を具申する「顧問」及びセンターの事業に対し評価を行う「評価委員」を委嘱することで了承を得たが、両方ともに外部評価委員として委嘱し、外部評価の際に意見を具申していただくのが、時間的拘束の削減や経費削減となり、委嘱される委員と本院の双方のために都合が良いのではないかとの提案があり、外部評価委員会を設置することのメール審議が行われた。

審議の結果、下記のとおり了承された。

なお、メール審議時の委員の意見を参考にすると「外部評価委員」という名称に対する認識が統一されてないことが明らかになった。そのため、委員長より誤解が生じる可能性があると考えられるので、メディカル・ワークライフバランスセンター運営においては「外部アドバイザー」として委嘱し、外部アドバイザーは、「(センター事業に関する)報告会」において、センター運営委員、学内関係者とともに、センター運営に関する指導・助言を行うこととしたい旨のメールが改めてあり、特段の意見がないことから了承された。

記

外部評価委員会として設置を認めることに、

賛成 6名、反対 1名、回答なし 3名（委員長は除く計10名）

2) 病児保育検討ワーキンググループ

第1回ワーキンググループ会議

日時：2012年10月10日（水） 17:30～18:15

場所：歯学部の部門長室

議事内容

- 各委員の自己紹介と病児保育の必要性についての意見交換
- 開設に当たり、場所・施設・経費の検討
- 次回ワーキンググループ開催まで、国内大学病院の資料を収集し、収集できた時点で第2回を開催する予定とした

第2回ワーキンググループ会議

日時：2013年2月28日（木） 17:00～17:50

場所：第2会議室

議事内容

- 病児保育室の確保
小児科外来、病棟から近く、屋外等に出すに医師・看護師が駆けつけられる場所であること。案として「病棟・診療棟2階 女性医師当直室」が挙げられた。
- 病児保育室導入による、経済的効果
金銭的な効果は見込めないため、病児保育導入による優秀な女性医師、看護師等の離職の減少、女性研究者の研究発表等の増加。
- 病児保育運営による取り決め
「電子カルテに登録することが、病児保育室の利用条件」、「利用の有無関わらず登録料を取る」等

病児保育検討WGメンバー

| | 氏名 | 所属 | 役職 |
|---------|--------|---------|-------|
| WGリーダー | 森内 浩幸 | 小児科 | 教授 |
| WG副リーダー | 中嶋 有美子 | 小児科 | 助教 |
| | 中富 明子 | 小児科 | 医員 |
| | 福島 愛 | 産婦人科 | 医員 |
| | 高橋 眞弓 | 看護部 | 副看護部長 |
| | 濱本 洋子 | 6F東 | 看護師長 |
| | 野崎 陽子 | 総務課 | 事務 |
| | 小川 啓三 | 第2施設管理班 | 班長 |

| | | | |
|--------|-------|-----------|-------|
| (センター) | 伊東 昌子 | mWLB センター | センター長 |
|--------|-------|-----------|-------|

3) みんなの和つくりワーキンググループ^o

第1回ワーキンググループ会議

日時：2012年10月29日（月）12:00～

場所：総務課会議室

議事内容

1. 趣旨の説明（大西課長から）

職種を超えたコミュニティーを形成するために、種々の趣味を同じにする人のサークルを、メディカル・ワークライフバランスセンターが中心になって作る

2. イントラネット、フェイスブックなど呼びかけ、登録、参加のシステムについて、センターがホームページを担当しているプライムソシオと検討し、提案することにした

第2回ワーキンググループ会議

日時：2013年3月13日（月）14:00～15:00

場所：放射線部カンファランス室

議事内容

病院イントラネットを活用したコミュニティーづくり案

みんなの和つくりWGメンバー

| | 氏名 | 所属 | 役職 |
|--------|-------|------------|----|
| WGリーダー | 大西 文昭 | 総務課 | 課長 |
| | 山田 一岳 | 総務課 | 主査 |
| | 浜村 博 | 医療支援課 | 課長 |
| | 池之上 翼 | 医療教育開発センター | 事務 |
| | 宮上 朋子 | 病院企画課 | 事務 |

| | | | |
|--------|-------|-----------|-------|
| (センター) | 伊東 昌子 | mWLB センター | センター長 |
|--------|-------|-----------|-------|

4)ホームページ運営委員会

第1回 ホームページ運営委員会

日時：2012年6月24日（日）13:30～15:00

場所：長崎大学 おもやいセンター内ミーティングルーム

出席者：伊東、長谷川、田中様（プライムソシオ）、サポーター会員、三宅



| ホームページの改善点と追加内容の検討 | |
|--|-------------|
| ◎ホームページ全体サイト訪問者数等のグラフを提出いただく | (担当) 田中様 |
| 〈訪問者〉 2012年3月83人→4月547人→5月756人→6/22迄606人 〈新規閲覧〉 3月30%→4月71%→5月73%→6/22迄72% と毎月右肩上がりの推移 →さらに詳細にどのページの閲覧が多いかを調べていただき、診療科、診療部などに情報提供、更新を促す資料とする | 三宅 |
| ◎家族のフォトコンテスト 募集期間8月13日（月）～10月10日（水） 投票期間10月15日（月）～10月31日（水） 審査期間11月1日（木）～11月9日（金） 掲載期間11月12日（月）～11月30日（金） 表彰式11月 日（ ） 応募資格:病院内職員対象 投票はどなたでも1人1回OK 特別賞、病院長賞、1等～5等（最多投票）、愛情いっぱい賞の8受賞 賞品、プリント代は輔仁会に交渉 | 伊東先生 |
| 携帯での投票、あじさいプロジェクトHP(info01?)から応募＆投票ができないか 携帯写真をどこまでプリント拡大できるか | 田中様 |
| ◎HPのキャリアサポート→復職トレーニングのページは現在制作中と表示されているが、センター運営委員会7月初旬開催後、WG作って詳細決めていく | |
| ◎拠点病院支援情報の診療科からのメッセージが2つのみなので、院内の様々な支援情報から各診療科HPへリンクをはりたい・メッセージ掲載依頼を医局長へメール依頼 診療部門にも掲載情報提供を依頼する 依頼する診療部門を選別して診療科のように表にせず、メッセージ形式で女性医師へ配慮している事など掲載 | 三宅 |
| ◎病院HPにバナー設置を宮上さんへ依頼 病院HP運営委員会で審議してもらい、許可下りれば病院HPとあじさいプロジェクトHPがリンクできる イントラは院内のシステムで、イントラとあじさいプロジェクトHPはリンクできない イントラ用のセンターページ作成が必要となる（医療教育開発センターはどうなってるか） | 三宅 中島 |
| マタニティ白衣レンタル開始を宮上さんへイントラに掲載依頼 院内の様々な支援情報（こんな制度があったとは！）のページがイントラから見れるといい とサポーターの方よりアドバイス頂く →内規作成の本部、病院等に休業、休暇の使い分け確認 訂正してから 宮上さんへイントラにPDF化した制度一覧を掲載してもらう | 三宅 |
| ◎地域就労支援情報ページ 158医療機関へ案内 → 51医療機関から情報提供あり 写真提供が少なく、【no image】が多いので長谷川先生より連絡先データを頂き、TELコールかメールで写真提供依頼する | 三宅 |
| ◎学生ランチミーティングの写真をとり、HPへ掲載する | 三宅 |
| ◎女性の健康検定 試験日5月13日（日）伊東先生合格 記事をHPへ掲載する | 三宅 |

第2回 ホームページ運営委員会

日時；2012年11月29日（木）14:30～15:00

場所；病院メディカル・ワークライフバランスセンター

出席者：伊東、長谷川、田中様（プライムソシオ）、サポーター会員、三宅

| ホームページの改善点と追加内容の検討 | 担当 |
|--|-------|
| ①サポーター俱楽部 バナーをトップへ貼る | 田中様 |
| サポーター俱楽部通信（メルマガ）を一斉送信するも、受け側がPCからの受信拒否している様子で届かない→宛先指定受信の設定方法をHPに記載する | 三宅 |
| ②お知らせ、キャリアサポート、活動報告、の記事の更新が重複してしまう、調査報告の場所がわかりにくい 活動報告は、最終的には年間の総まとめを月別にPDFにしてUP、とりあえずは全ての記事を活動報告にも更新しておけば、随時状況把握できる。調査報告もキャリアサポート内にカテゴリ追加 | 田中様 |
| キャリアサポートは（講演会、復トレ）をカテゴリ分け（=キャリアサポートのお知らせ記事は必要無）、お知らせへはその他の情報記事をUP | 田中様 |
| ③本柱の名称変更【拠点病院支援情報】→【ワークライフバランス実現を目指す病院の取り組み】 インタビュー記事は【地域就労支援情報】の中 →地域医療機関検索はこちらから →取材:地域就労支援の実情 一国の支援制度紹介 に追加予定だったが 上記変更により 【ワークライフバランス実現を目指す病院の取り組み】の中に変更？ ページ構成を再度検討し、変更による見積提出 | 田中様 |
| ホームページ全体の記事掲載方法が決定したら、掲載記事全てのカテゴリやタグの振り直し | 田中様三宅 |
| ④検索エンジンのキーワード追加検討 →キャリアサポート、両立、院内保育、病児保育、ダイバーシティ、多様性、子育て を追加決定 | 田中様 |
| ⑤ホームページアクセス解析 *別添資料参照 〈ユーザー数(訪問重複無)〉 2012年3月83人→4月547人→5月756人→6月758人→7月430人→8月374人→9月410人→10月733人→11月481人 →10月は、フォトコンテストの投票サイトをあじさいプロジェクトホームページとリンクすることにより、ユーザー数を回復させることに成功 | |
| ⑥バナーの見直し 数か月単位でバナー貼り替え おもやいセンター、厚労省のもの、日本医師会女性医師支援センター（現状のまま）の3つに変更 | 田中様 |
| ⑦趣味のページは、Facebook で対応検討？ 総務大西課長とプライムソシオ田中様の面談日程調整 | 伊東 |
| ⑧イントラのセンターページ更新方法を企画課宮上様より引継 8月ホームページ開設よりさかのぼって記事作成し更新 イントラのセンターページで 趣味のページができたら、告知 | 三宅 |

第3回 ホームページ運営委員会

日時：2013年3月28日（木）14:30～15:00

場所：病院メディカル・ワークライフバランスセンター

出席者：伊東、長谷川、田中様（プライムソシオ）、サポーター会員、三宅

議題：

1. あじさいプロジェクトHPへのアクセス数の評価
2. みんなの和つくりWGの決定を受けて、あじさいプロジェクトの運営方法の検討



平成24年度あじさいプロジェクト活動報告会

日時：2013年3月4日（月）17:00～18:00

場所：第4会議室

参加者

外部アドバイザー：

大阪厚生年金病院名誉院長 清野 佳紀様

福崎博孝法律事務所弁護士 福崎 博孝様

長崎県医師会 会長 蒔本 恭様

長崎県男女共同参画室 室長 森 玲子様

長崎市男女共同参画推進センター センター長 馬場 淳子様

関係機関・関係組織代表：

長崎大学病院長 河野茂様

長崎大学男女共同参画推進センター センター長 大井久美子様

長崎県福祉保健部医療人材対策室医師確保推進班 本土 靖様

長崎県福祉保健部医療政策課 長谷川麻衣子様

サポーター代表（長崎新聞社総務局総務部） 吉岡和佳子様

あじさいプロジェクト運営委員 11名

センター長より平成24年度活動報告ならびに
平成25年度活動計画について報告、その後質
疑応答が行われた

（質疑応答についてはホームページ参照）



7. 受賞

第1回おイネ作文コンテスト 奨励賞 受賞

シーボルトの娘である 楠本イネが長崎を離れて愛媛県宇和島で育てられたというゆかりで、西予市は市をあげておイネさんと彼女の歴史を大切にするため、これまで多くの活動を行ってきました。

この度は、第1回おイネ作文コンテストが西予市主催で開催され、伊東昌子は、「いち女性医師としての、私の勤めと次世代への期待」の作文を応募したところ、奨励賞（最優秀賞）をいただくことになりました。

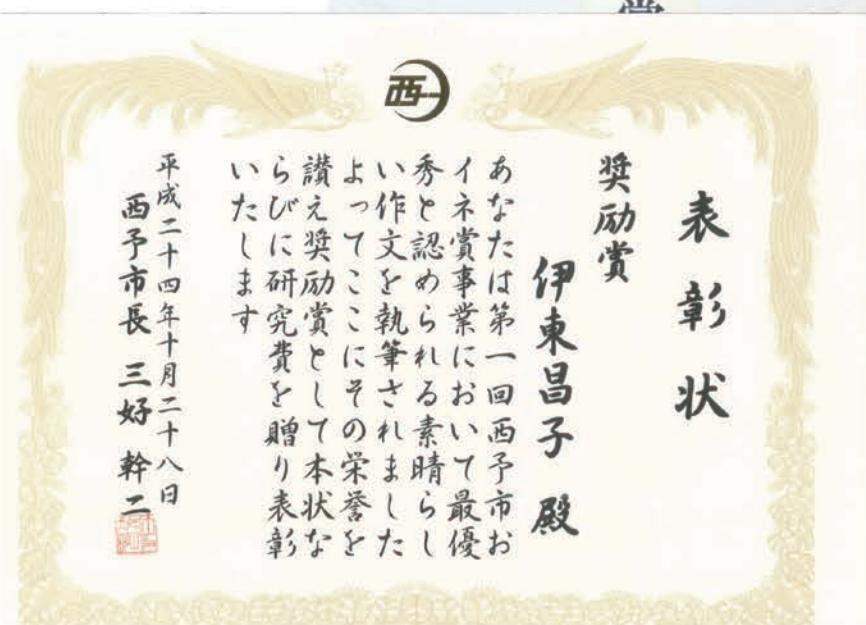
2012年10月28日（日）に、愛媛県西予市宇和文化会館でおイネ賞表彰式がありました。おイネ賞には全国で働く女医、または、女医をめざす学生などから総数65点の論文・作文の応募があったそうです。

奨励賞のほかに、特別賞に旭川医科大学医師 間宮敬子さん、同じく滋賀医科大学医学科4年生の渡邊真理さんが選ばれた。



授賞式会場
と受賞の3名

受
賞



8. その他

平成24年度 第1回多様な勤務形態導入促進事業研修会 2012.7.14 参加

日本医師会 第8回男女共同参画フォーラム「変わる～男女共同参画が啓くワークライフバランス」 2012.7.28 富山 参加

厚生労働省委託 大学等におけるキャリア教育実践講習 2012.8.6. 修了

長崎県看護協会 平成24年度看護職のワークライフバランス推進ワークショップ公開研修 2012.8.31 参加

アマランスフェスタ2012 2012.9.30 参加

女性の健康推進員（検定） 2012.9.30 認定

東京大学ワークライフバランス推進・研究プロジェクト成果報告会「～ワーク・ライフ・バランスの新次元～「女性活躍推進」と「仕事と介護の両立」」 2012.10.4 参加

ワークライフバランスコンサルタント認定 2012.10.5 取得

平成24年度第38回長崎大学院セミナー 社会疫学研究「社会格差と健康」「ジェンダーと健康格差」 2012.10.30 出席

内閣府主催 働き方シンポジウム「これからの中時代に求められる、効率よく成果をあげる働き方」 2012.11.2 参加

ワーク・ライフ・バランス シンポジウム in 長崎 2013.1.15 参加

FUJIYAMA-NET 平成24年度 女性医師シンポジウム 2013.1.27 参加

平成24年度 女性医師支援事業連絡協議会 2013.2.22 参加

日本医師会 平成24年度 第2回2020.30推進懇話会 2013.3.7 参加

9. 活動目標と実績一覧

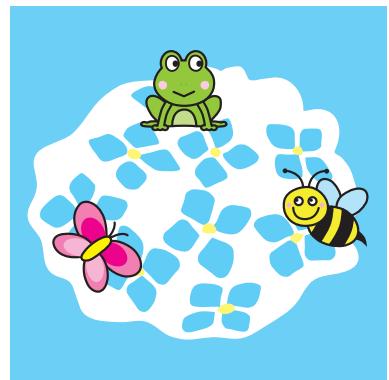
| 目的 | 活動 | 項目 | 詳細 | 対策 | 目標 | 実績 | 内容／成果 |
|--------------------------------|---------------------------------------|-------------------|-------|------|-------------|--|---|
| ワークライフバランス実現のための直接支援 | | | | | | | |
| キャリア相談 | 伊東センター長の個別対応 | | 個室用意 | 10件 | 25件 | (2月末現在) | 相談内容内訳(キャリア4、就労支援7、産前産休4、職場環境2、対人関係1、支援メニュー1、その他6件) |
| | | | | | | | |
| 復職＆リフレッシュトレーニング | 第1回 9月24日(月)午前開催【急変時対応】 | | | 3回 | 4回 | | |
| | 県医師会と連携 | 託児シッタ代金補助 | | 8名 | 6名 | 長崎県在住の復職希望医師、大学病院の復職希望看護師対象 | |
| | 周知活動 | チラシ配布 | | | 2名 | 3400部 | 県医師会、県内医療機関、病院内、大学医学部等 |
| | | メール告知 | | | 125名 | あじさいAGORA、センター登録者、就労支援医療機関、医局長メーリングリスト | |
| | | ホームページ | | | 不特定 | あじさいプロジェクト、おもやいセンター、長崎大学病院、病院内イントラ、病院内イントラmWLB | |
| | 参加者アンケート(6/6) | | | | 100% | 100% | |
| | サポートー会員(5/6) | | | | 80% | 83% | |
| | 第2回 11月12日(月)午後開催【知って得する輸液のはなし】 | | | | 10名 | 4名 | 長崎県在住の休職・離職中の医師、長崎県内の医療機関に勤務している医師対象 |
| | 復トレ経験率(1/4) | | | | 25% | 25% | |
| | 県医師会と連携 | 託児シッタ代金補助 | | | 0名 | | |
| 第3回 1月29日(火)午前開催【胸部単純エックス線写真】 | 周知活動 | チラシ配布 | | | 3600部 | 県医師会、県内医療機関、病院内、医局用院内EV6基に掲示、大学医学部等 | |
| | | メール告知 | | | 125名 | あじさいAGORA、センター登録者、就労支援医療機関、医局長メーリングリスト | |
| | | ホームページ | | | 不特定 | あじさいプロジェクト、長崎大学病院、病院内イントラ、病院内イントラmWLB | |
| | 参加者アンケート(4/4) | | | | 100% | 100% | |
| | サポートー会員(3/3) | | | | 80% | 100% | |
| | 復トレ経験率(2/8) | | | | 25% | 25% | |
| | 県医師会と連携 | 託児シッタ代金補助 | | | 1名 | | |
| | 周知活動 | チラシ配布 | | | 3600部 | 県医師会、県内医療機関、病院内、医局用院内EV6基に掲示、大学医学部等 | |
| | | メール告知 | | | 125名 | あじさいAGORA、センター登録者、就労支援医療機関、医局長メーリングリスト | |
| | | ホームページ | | | 不特定 | あじさいプロジェクト、長崎大学病院、病院内イントラ、病院内イントラmWLB | |
| 第4回 3月11日(月)午前開催【咳の鑑別、アスピリン喘息】 | 参加者アンケート(8/8) | | | | 100% | 100% | |
| | サポートー会員(5/6) | | | | 80% | 83% | |
| | 復トレ経験率(3/6) | | | | 25% | 50% | |
| | 県医師会と連携 | 託児シッタ代金補助 | | | 1名 | | |
| | 周知活動 | チラシ配布 | | | 3600部 | 県医師会、県内医療機関、病院内、大学医学部等 | |
| | | メール告知 | | | 125名 | あじさいAGORA、センター登録者、就労支援医療機関、医局長メーリングリスト | |
| | | ホームページ | | | 不特定 | あじさいプロジェクト、長崎大学病院、病院内イントラ、病院内イントラmWLB | |
| | 参加者アンケート(5/6) | | | | 100% | 83% | |
| | サポートー会員(2/3) | | | | 80% | 67% | |
| | 支援メニュー | | | | 20名 | 7名 | |
| 支援メニュー | 子育てタクシー費用補助 | | | | | 6名 | |
| | 家事代行、シッター費用補助 | | | | | 1名 | |
| | WLB研修参加費用補助 | | | | | 0名 | |
| | 周知活動 | チラシ配布 | | | | 30部 | 復トレ参加者、院内関係者EV6基掲示等 |
| | | メール告知 | | | | 46名 | あじさいAGORA、センター登録者、復トレ参加者 |
| | | ホームページ | | | | 不特定 | あじさいプロジェクト、病院内イントラmWLB、子育てタクシー協会 |
| | マタニティ白衣貸出 | | | | | 4名 | 3名 |
| | 購入 | Sサイズ4枚、Mサイズ4枚 | | | | 8枚 | |
| | 周知活動 | チラシ配布 | | | | 30部 | 復トレ参加者、院内関係者EV6基掲示等 |
| | | メール告知 | | | | 36名 | あじさいAGORA、センター登録者 |
| ネットワーク形成 | | ホームページ | | | | 不特定 | あじさいプロジェクト、病院内イントラ、病院内イントラmWLB |
| | センター登録 | | | | | | |
| | SNS登録 | あじさいAGORA登録 | | 20名 | 20名 | センター活動情報発信、コミュニティサイトで交流 | |
| 情報発信・広報活動 | センター直接登録 | 医局や支援メニュー利用で登録 | | 16名 | 16名 | センター活動情報発信 | |
| | サポートークラブ登録 | センター活動イベントで登録 | | 100人 | 138名 | サポートー俱楽部通信メルマガvol1、vol2、vol3発信 | |
| | あじさいプロジェクトホームページ | | | 随時更新 | | | |
| 情報発信・広報活動 | 地域の就労支援情報提供ページの更新 | 158病院へ調査票郵送、FAX返信 | 158病院 | 53病院 | | | |
| | | リンク強化(20/22) | | | 91% | 診療科HPとリンクし、診療科ごとのアピールメッセージを掲載 | |
| | | バナー定期貼り替え | | | 3 | 長崎大学病院、ながさき女性医師の会、日本医師会女性医師支援センター、カエル！ジャパン、イクメンプロジェクトなど、他機関のバナーをトップページで定期貼り替え | |
| | アクセス数解析 | | | | 月平均 726人 | 訪問者 4月734人→5月967人→6月963人→7月551人→8月538人→9月542人→10月1097人→11月728人→12月566人→1月689人→2月606人 | |
| | HP運営委員会 | | | | 年3回 | 3回 | 5名参加 大学病院イントラにセンターホームページとバナー開設 |
| | 第1回 6月24日(日)実施 | | | | | | 6名参加 拠点病院支援情報からワークライフバランス実現を目指す病院の取り組みへ表現変更 |
| | 第2回 11月29日(木)実施 | | | | | | 5名参加予定 あじさいプロジェクトホームページアクセス数検討、みんなの和つくりWGの周知方法決定を受けて、あじさいプロジェクトの運営方法の検討 |
| | 第3回 3月28日(木)実施予定 | | | | | | |
| | 病院イントラネットホームページ | | | 随時更新 | | | |
| | インターネットの中にメディカル・ワークライフバランスセンターのバナーを作成 | | | | | | カウンタを設置し、次年度よりアクセス解析を行う |
| コミュニケーション | コミュニティサイト あじさいAGORA | | | | | 随時更新 | |
| | ミクシィを使ってAGORA会員と情報を共有 | | | | | | |

| 目的 | 活動 | 項目 | 詳細 | 対策 | 目標 | 実績 | 内容／成果 |
|---------------|--|--------------------------|-----------------|------|---------------|-----|---|
| 情報発信・広報活動 | | | | | | | |
| ポスター・チラシ制作 | | | | | | | |
| センター紹介用 | | | | | | | |
| | | 周知活動 | ポスター配布 チラシ配布 | | 300部 5000部 | | 地域医療機関、病院内 地域医療機関、病院内、県医師会、講演会、学生講義等で配布 |
| キャリアサポート用 | | | | | | | |
| | | 周知活動 | ポスター配布 チラシ配布 | | 300部 5000部 | | 地域医療機関、病院内 地域医療機関、病院内、県医師会、講演会、学生講義等で配布 |
| 大学病院内センター活動紹介 | | | | | | | |
| | | 周知活動 | 手作りチラシ作成・印刷・配布 | | | | 学生ランチミーティング、復職＆リフレッシュトレーニング、支援メニュー利用者、家族のケータイ フォトコンテスト受賞者、医局用院内EV6基に掲示 |
| 取材／記事 | | | | | | | |
| | 04月02日 | 長崎大学広報誌 Choho(チョーホー) | 記事 | | | | Vol.39「大学はわたしの仕事場2」 |
| | 04月13日 | NBC長崎放送 特集 | テレビ | | | | 「特集 医療現場のワークライフバランス」 |
| | 04月23日 | 長崎大学病院イントラネット | ネット | | | | 開設紹介 |
| | 06月15日 | 長崎県医師会報 座談会 6月号 | 記事 | | | | Vol.30続ける力「ワークライフバランスセンター開設」 |
| | 05月21日 | 東京交通新聞 | 新聞 | | | | 「女医の育児サポート 子育てタクシー支援」 |
| | 09月01日 | 長崎大学医学同窓会雑誌 朋百(ポンペ) | 記事 | | | | Vol.127「教授就任のご挨拶」 |
| | 10月13日 | 朝日新聞社 | 新聞 | | | | 「おイネ賞」に伊東医師 |
| | 10月29日 | 愛媛新聞社 | 新聞 | | | | 「医学の道追求 女性にエール「おイネ賞」に3氏」 |
| | 10月29日 | 朝日新聞社 | 新聞 | | | | 「おイネ賞表彰式医師ら3人喜び」 |
| | 12月03日 | 長崎新聞社 | 新聞 | | | | 「あじさいプロジェクトスタート 女性医師の復職を支援」 |
| | 12月10日 | 日本医師会 DOCTORASE(ドクターラーゼ) | 記事 | | | | 「大学における男女共同参画の実践事例」 |
| 啓発活動 | | | | | | | |
| トップセミナー | | | | | | | |
| | 7月13日(金)長崎大学関連病院長会総会 長崎大学医学部との合同会議 | | | | 年1回 | 1回 | |
| | センター長講師として講演 | | | | | | 「医療現場におけるワークライフバランスの重要性について」 |
| | 管理職対象アンケート作成配布 | | | 80名 | 59名 | | 会議出席者へ配布 |
| | 回収 | その場で回収 | | 50% | 74% | | |
| | 結果集計 | | | | | | 集計、グラフ作成 |
| | まとめ・還元 | | | | | | 講演での参考資料として使用 |
| | 周知活動 | ホームページ | | | | | あじさいプロジェクト、病院内イントラmWLB、 |
| センター長その他講師活動 | | | | | | | |
| | 12月8日(土)第24回放射線医学教室同門会 | | | | | | 「医師のための「仕事と生活のシナジー」を考えませんか？」 |
| | 12月16日(日)第51回日本医師会生涯教育講座 | | | | | | 「今だからこそ、医療現場にワークライフバランス・ダイバーシティが必要とされるわけ」 |
| | 周知活動 | センター紹介用チラシ配布 | | 100部 | | | |
| | 1月30日(水)平成24年度医療センター生涯教育セミナー | | | | | | 「骨粗鬆症病態解明と、医療現場におけるワークライフバランス実現を目指して」 |
| | 周知活動 | センター紹介用チラシ配布 | | 80部 | | | |
| | 2月13日(水)長崎市勤務医対策研修会 | | | | | | 「医療人として、経営者としてのワークライフバランス」 |
| | 周知活動 | センター紹介用チラシ配布 | | 50部 | | | |
| | 3月3日(日)山口県医師会男女共同参画部会 | | | | | | 「医療現場におけるワークライフバランス実現を目指して 一仕事をしていく上での幸福とはー」 |
| | 周知活動 | センター紹介用チラシ配布 | | 100部 | | | |
| 懇談会 | | | | | | | |
| | 11月19日(月)【医学生・研修医をサポートするための会】 | | | 50名 | 63名 | 年1回 | 1回 |
| | 講演「女性医師の結婚と出産のタイミング」～キャリア構築と妊娠のリスク～ 帝京大学医学部公衆衛生学講座 野村恭子先生 | | | | | | 医学部学生、先端医育支援センター、医療教育開発センター、ながさき女性医師の会、県内の医師、研修医対象 |
| | 講演2「女性医師支援に対しての医師会の取り組みについて」 長崎県医師会常任理事 上戸穂高先生 | | | | | | |
| | ながさき女性医師の会と連携 | 合同共催 | | | | | 周知活動、当日受付、アンケート回収をセンターで行う |
| | 長崎県医師会主催日本医師会補助 | | | | | | |
| | | 託児シッター利用 | | 1名 | | | |
| | 周知活動 | チラシ配布 | | 255部 | | | 長崎大学病院内、医局用院内EV6基に掲示、長崎大学医学部、先端医育支援センター、医療教育開発センター、長崎女性医師の会 |
| | | メール告知 | | 不特定 | | | あじさいAGORA、長崎大学広報 |
| | | ホームページ | | 不特定 | | | あじさいプロジェクト、病院内イントラ、病院内イントラmWLB |
| | 参加者アンケート(28/63) | | | 50% | 44% | | |

| 目的 | 活動 | 項目 | 詳細 | 対策 | 目標 | 実績 | 内容／成果 | | |
|-------------------------|-------------------------|--|-----------------|------------|-------------|---|---|---|--|
| 啓発活動 | 講演会 | 12月21日(金)【次世代の医師へ伝えたいこと】 | | | 年1回 100名 | 1回 65名 | 大学病院職員、医学部職員、医学部学生、男女共同参画推進センター、ながさき女性医師の会、県内の医師、研修医、コメディカル対象 | | |
| | | 講演Ⅰ「ピアサポートで学び、成長する」 | | | | | | | |
| | | 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医療人キャリアセンターMUSCATセンター長 地域医療人材育成講座教授 片岡仁美先生 | | | | | | | |
| | | 講演Ⅱ「キャリア継続の力を育む」 | | | | | | | |
| | | 公益社団法人日本女医会会長 名古屋市立東部医療センター名誉院長 津田喬子先生 | | | | | | | |
| | | 医学部と連携 | 合同主催 | | | | | | 医学部学務係より各学年総代へメーリングリストで周知依頼 |
| | | | 託児シッター利用 | | | 4名 | | | |
| | | 周知活動 | ポスター配布 | | | 300部 | | | 長崎大学病院内、長崎大学医学部、先端医育支援センター、保健学科、おもやいセンター、医療教育開発センター、長崎大学広報、県内医療機関 |
| | | | チラシ配布 | | | 4000部 | | | 長崎大学病院内、長崎大学医学部、医学同窓会、先端医育支援センター、保健学科、おもやいセンター、医療教育開発センター、あじさい保育園、県内医療機関、ながさき女性医師の会、院外研修医、長崎大学広報、長崎県医師会、日本医師会講演会、製薬会社、放射線科同門会、復職トレーニング参加者、ランチミーティング参加学生等 |
| | | 参加者アンケート(31/65) | メール告知 | | | 不特定 | | | あじさいAGORA、センター登録者、就労支援医療機関、長崎大学教官メーリングリスト、長崎大学事務メーリングリスト、医局長メーリングリスト、第二内科メーリングリスト、復職トレーニング申込者 |
| サポーター会員 | ホームページ | | | 不特定 50% | 48% | | あじさいプロジェクト、病院内イントラ、病院内イントラmWLB、おもやいセンター | | |
| 2名 | | | | | | | | | |
| 医療機関就労環境改善支援 | 医療機関訪問 | 6月18日長崎記念病院 | | | 年3ヶ所 | 3ヶ所 | | | |
| | | まとめ・還元 | あじさいプロジェクトHP掲載 | | | | | 就労環境の実態把握、離職者の把握の要望あり(育休中医師1名センター登録) | |
| | | 9月3日上五島病院 | | | | | | 病院長、育児休業中の医師、内科診療科長、子育て中フルタイム医師、バックアップで派遣された医師へ取材 | |
| | | まとめ・還元 | あじさいプロジェクトHP掲載 | | | | | | |
| | | 11月6日長崎北病院 | | | | | | 病院長、看護部長、看護師、出産・育休後に短時間勤務で復帰している医師へ取材 | |
| まとめ・還元 | あじさいプロジェクトHP掲載 | | | | | | | | |
| 長崎大学病院就労環境改善対策 | 医局訪問 | 22診療科と救命救急センターを調整、8日間にかけて1拠点約30分の面談 | | 23拠点 | 23拠点 | | 各診療科の現状とかかえている問題把握、センターの目的と活動内容説明 | | |
| | | まとめ・還元 | センター定例ミーティングで報告 | | | | | 産休、育休職員のメルアドを取得し、センターからもフォローしていく 名簿16人分 | |
| | | 回収率 50% | 回収率 59% | | | | | | |
| | | アンケート作成配布 | | 2158名 | 1278名 | | | イントラより名簿取得、重複チェック | |
| 介護ニーズアンケート【病院に勤務する職員対象】 | 介護ニーズアンケート【病院に勤務する職員対象】 | 回収 | 院内便で開封 | 50% | 59% | | 個人宛に案内状(センター紹介、サポーター入会依頼)、センター開設チラシ、アンケート、返信封筒4点を封入 | | |
| | | 結果集計 | | | | | | 集計期間4日間(3人)、グラフ作成 | |
| | | まとめ・還元 | | | | | | トップセミナー講演での参考資料として使用 | |
| | | 周知活動 | ホームページ | | | | | あじさいプロジェクト、病院内イントラ、病院内イントラmWLB、 | |
| | | 年1回 | 1回 | | | | | | |
| センター運営委員会 | センター運営委員会 | 7月3日 開催 | | | | | センター運営委員会の目的について、センタ一年間計画について、ワーキンググループについて、評価の実施について、センター顧問の配置について、その他 | | |
| | | 議事録作成 報告 | | | | | | 運営委員11名 | |
| | | メール審議 | | | | 1回 | | 「外部評価委員」の扱いについて協議 | |
| | | WG立ち上げ | | | | | | | |
| | | 病児保育検討WG | | | | | | メンバー8名 第1回10月10日実施 第2回2月28日実施 | |
| みんなの和つくりWG | | | | | | メンバー5名 第1回10月29日実施 | | | |
| 年1回 | 1回 | | | | | | | | |
| 報告会 | 報告会 | 3月4日 開催 | | | | | センターの本年度活動報告、来年度活動予定、その他 | | |
| | | 外部アドバイザー招集 | | | | | | 9月外部アドバイザー5名へ委嘱文書発送 | |
| | | 報告会出席者招集 | | | | | | 12月報告会出席者22名へ出欠確認発送 | |
| | | 報告書暫定版作成 | | | | | | 2月外部アドバイザー5名へ暫定版報告書発送 | |
| 家族のケータイフォトコンテスト | | 30作品 | 67作品 | | | | | | |
| 8月20日から11月30日 開催 | | | | | | 長崎大学病院に勤務する職員対象 | | | |
| 輔仁会と連携 | 経費補助 | | | | | | | | |
| 周知活動 | ポスター配布 | | | 200部 | | 病院内、医局用院内EV6基に掲示、輔仁会 | | | |
| | ホームページ | | | 不特定 | | あじさいプロジェクト、病院内イントラ、病院内イントラmWLBで作品の公開審査、結果発表 | | | |
| 結果発表 | 掲示板 | | | 不特定 | | 長崎大学病院玄関ロビーで受賞8作品を約3週間掲示 | | | |
| 表彰式 | | | | | | 病院長室 | | | |
| 受賞者アンケート(8/8) | | | | 100% | 100% | 病院長室で表彰式簿後、別室にてアンケート配布、センター活動案内、サポーター入会誘致 | | | |
| サポーター会員(30/31) | | | | 100% | 97% | フォトコンテスト応募者にサポーター入会誘致 | | | |

| 目的 | 活動 | 項目 | 詳細 | 対策 | 目標 | 実績 | 内容／成果 |
|--------------|--------|---|-----------------|------|------|---------------------------|---|
| 次世代育成(医学生対象) | | | | | | | |
| 学生のアンケート調査 | | | | | | | |
| | 4月から2月 | 5年生ランチミーティング | | | 308人 | 281人 | |
| | | アンケート作成配布 | 放射線科ポリクリ後センターにて | 97名 | 78名 | 毎週水曜 約3名/回 | |
| | | 回収 | その場で回収 | 100% | 100% | | |
| | | 結果集計 | | | | 集計、グラフ作成 | |
| | | まとめ・還元 | | | | 講演での参考資料として使用 | |
| | | 周知活動 | ホームページ | | | あじさいプロジェクト、病院内イントラmWLBを予定 | |
| | 5月30日 | 4年生の講義 | | | | | |
| | | アンケート作成配布 | 講義室 | 102名 | 92名 | | |
| | | 回収 | その場で回収 | 100% | 90% | | |
| | | 結果集計 | | | | 集計、グラフ作成 | |
| | | まとめ・還元 | | | | 講演での参考資料として使用 | |
| | | 周知活動 | ホームページ | | | あじさいプロジェクト、病院内イントラmWLBを予定 | |
| | 6月26日 | 1年生の講義 | | | | | |
| | | アンケート作成配布 | 講義室 | 109名 | 109名 | | |
| | | 回収 | その場で回収 | 100% | 100% | | |
| | | 結果集計 | | | | 集計、グラフ作成 | |
| | | まとめ・還元 | | | | 講演での参考資料として使用 | |
| | | 周知活動 | ホームページ | | | あじさいプロジェクト、病院内イントラmWLBを予定 | |
| その他 | | | | | | | |
| 研修参加 | | | | | | | |
| | 05月13日 | 第1回 女性の健康検定 試験 | 東京 | | 済 | 合格 | 9月30日 女性の健康推進員認定 NPO法人 |
| | 07月01日 | 日経WOMAN Networking フォーラム2012 | 東京 | | 済 | 参加 | 日経ウーマン |
| | 07月14日 | 平成24年度第1回多様な勤務形態導入促進事業研修会 | 長崎 | | 済 | 参加 | 長崎労働局監督課 |
| | 07月28日 | 第8回男女共同参画フォーラム | 富山 | | 済 | 参加 | 日本医師会 変わる~男女共同参画が啓くワークライフバランス |
| | 08月06日 | 大学等におけるキャリア教育実践講習 | 東京 | | 済 | 修了 | 厚生労働省委託事業 |
| | 08月31日 | 平成24年度看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ ^{公開研修} | 長崎 | | 済 | 参加 | 長崎県看護協会 ワークライフバランスの基本～こうやって作ろう 魅力的な職場と生活!～ |
| | 09月30日 | アマランスフェスタ2012 | 長崎 | | 済 | 参加 | 長崎市男女共同参画推進センターアマランス 市民がつくる新しい縁～「家族持ち」から「人持ち」へ～ |
| | 08月03日 | 関西4期WLBC養成講座1/3 | 大阪 | | 済 | | |
| | 09月07日 | 関西4期WLBC養成講座2/3 | 大阪 | | 済 | | |
| | 10月05日 | 関西4期WLBC養成講座3/3 | 大阪 | | 済 | 取得 | 10月5日 ワークライフバランスコンサルタント認定 株式会社ワーク・ライフバランス |
| | 10月04日 | 東京大学社会科学研究所ワーク・ライフ・バランス推進・研究プロジェクト成果報告会 | 東京 | | 済 | 参加 | 東京大学社会科学研究所「～ワーク・ライフ・バランスの新次元～「女性活躍推進」と「仕事と介護の両立」」 |
| | 10月30日 | 平成24年度第38回長崎大学院セミナー | 長崎 | | 済 | 出席 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科「社会格差と健康」、「ジェンダーと健康格差」 |
| | 11月02日 | 働き方シンポジウム「これからの時代に求められる、効率よく成果を上げる働き方」 | 東京 | | 済 | 参加 | 内閣府男女共同参画局仕事と生活の調和推進室 経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス～ダイバーシティ推進に向けて～ |
| | 11月17日 | 日経WOMAN Networking フォーラムプレミアム2012 | 東京 | | 済 | 参加 | 日経ウーマン |
| | 11月23日 | 第3回岡山MUSCATフォーラム | 岡山 | | 済 | 参加 | 岡山大学医療人キャリアセンターMUSCAT 「多様性の底力」、「私らしく生きる・医療人として輝く」 |
| | 01月15日 | ワーク・ライフ・バランス シンポジウムIN長崎 ～働き方について考えてみませんか?～ | 長崎 | | 済 | 参加 | 長崎労働局監督課 「長崎の労働時間の現状とワーク・ライフ・バランスを踏まえた働き方について」 |
| | 01月27日 | 平成24年度女性医師シンポジウム | 東京 | | 済 | 参加 | FUJIYAMA-NET 「ロールモデルから学ぶキャリアの可能性」 |
| | 02月07日 | ワークライフバランスフェスタ東京2013 | 東京 | | 済 | 参加 | 東京都「WLBCのはじめの一歩～時代に求められるWLBCとは～」、「個人も会社も成長するワークライフバランス」 |
| | 02月22日 | 女性医師支援事業連絡協議会 | 東京 | | 済 | 参加 | 日本医師会 |
| | 03月07日 | 平成24年度第2回2020.30推進懇話会 | 東京 | | 済 | 参加 | 日本医師会 |
| | 03月15日 | 旭川医科大学二輪草センター | 北海道 | | 予定 | 視察 | 旭川医科大学 復職・子育て・介護支援センター(二輪草センター) |
| | 03月27日 | 平成24年度長崎県女性医師等就労支援協議会 | 長崎 | | 予定 | 出席 | 長崎県 |
| 定例ミーティング | | | | | | | |
| | | 実施 | | | 月1回 | 17回 | 県担当とセンター職員で業務内容進捗報告 |
| | | 議事録作成 | | | | | |
| 受賞 | | | | | | | |
| | 10月28日 | 第1回おイネ作文コンテスト | | | | | 受賞 最優秀賞(奨励賞)医学研究費50万取得 |

病院インセンティブ目標 と成果



| 項目 | 目標 | 実績 | 達成率 |
|------------------------------------|-----|-------|--------|
| 【1】就労に関する相談件数（年間） | 10 | 12 | 120% |
| 【2】ワークライフバランスに関する講演会（年間） | 1 | 1 | 100% |
| 【3】ワークライフバランスに関する意識調査回収率 | | | |
| (1) 介護ニーズに関する職員意識調査 | 50% | 59.2% | 118.4% |
| (2) 病院管理職におけるワークライフバランス 意識調査 | 50% | 73.7% | 146.0% |
| (3) 医学生におけるワークライフバランス ・キャリア意識調査 | 50% | 90.2% | 180.4% |

なお回収方法について、(1)は各人へ院内配布、返信封筒にて回収した。
(2)はトップセミナー、(3)は学生講義の際に机上配布、その場で回収した。



10. 謝辞 ~平成25年度に向けて~

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター設立においては、長崎県、長崎大学、長崎大学病院の関係者の方々には、多大なるご尽力をいただきありがとうございました。おかげさまで、スタートより1年を無事に終わることができました。何をやるにも、ゼロからのスタートで試行錯誤の1年間であったと思います。ご意見をいただいたり、相談に乗っていただきました、多くの協力者のみなさまには、心から感謝申し上げます。

平成25年度の事業計画として、24年度に行った基本事業の継続と新規事業を展開して参りたいと思います。

平成24年度からの継続事業としては、キャリアコンサルティング、復職＆リフレッシュトレーニング、キャリア講演会があります。復職＆リフレッシュトレーニングは隔月での開催が目標です。平成25年度には新たに、休職者への定期メール便（大学病院の状況お知らせなど）、介護e-book刊行、女性医師がキャリアを談話する機会、介護準備講習会を開催する予定です。

大学病院内では、24年度立ち上げた病児保育検討WG、みんなの和つくりWGが順調に進むことが確認できれば、次の段階として「働き方をカエルWG」を開始したいと思います。そのWGの中で、有給休暇取得率向上、メリハリのある働きによる30分創出作戦、ノー残業デーなど、平成24年度に取り組めなかった施策を検討していくつもりです。

長崎大学医学部学生に対しては、今年度と同様にカリキュラムとして「ワークライフバランス」「ダイバーシティ」「男女共同参画」を講義し、毎週水曜日にランチミーティングを継続していきたいと思います。

ワークライフバランス実現に向けた医療機関の訪問、インタビュー、事例紹介は継続してやっていき、ホスピレート認証取得を平成24年度の県央に続き、平成25年度は県北の医療機関で取得するよう支援していきます。

拡充事業として予算化が可能になれば、潜在医師の把握を進めていくことができますし、来年度の大きな事業と位置づけております。

来年度も、引き続きワークライフバランス実現、そして「働きがいのある職場作り」を目指して、ひたむきに一歩ずつ事業を進めて参ります。今後ともご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2013年3月吉日
メディカル・ワークライフバランスセンター
センター長教授 伊東昌子 振



報告書作成メンバー

センター長 伊東昌子
センター事務 三宅スコラスタン由香
センター事務 中島由美子



